

「スポーツ・健康まちづくり」 優良自治体表彰2021

スポーツ庁参事官（地域振興担当）

<目標分野> ※該当するものに全て印

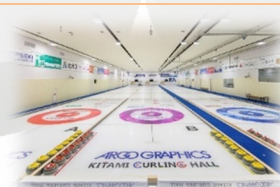
- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

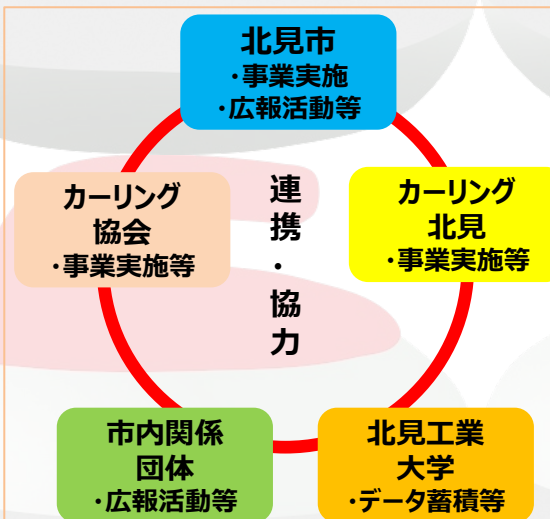
当市の認知度向上と国内外からの長期滞在型の合宿誘致等による交流人口拡大を図り、地域全体の「稼ぐ力」を高め、もたらされる宿泊業や飲食サービス業など合宿関連産業への経済波及効果を雇用創出につなげることを目的とする。【数値目標：年間利用者数 10,000人】

<PRポイント>

- ① 一生、カーリング宣言！……**唯一無二の施設である**アルゴグラフィックス北見
カーリングホールを使用し、カーリングが楽しめるよう貢献する
- ② 競技力向上支援システム…**世界初**の支援システムの活用を含めたスポーツ合宿誘致を展開し、交流人口の拡大を図る



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
北見市教育委員会社会教育部スポーツ課
- 地方スポーツ推進計画：
第2期北見市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：第2期北見市総合計画
- 地域スポーツコミッション：設置無し
- ホストタウンの相手先：エクアドル共和国



<市HP>



<カーリングNavi>

<カーリングサポート
インスタ>

<概要> 計画期間：～令和6年3月31日

<現状・課題>

当市は北海道内の他地域と比べ全国的な認知度が低く、スポーツ合宿を通じた市外からの交流人口拡大に取り組んでいるが、ラグビーや陸上などの夏季スポーツでは、当地域の冷涼な気候に優位性があり他地域との差別化が図られている一方で、スキーやカーリングなどの冬季スポーツでは、他地域との差別化の決め手に欠き冬期間の交流人口拡大の低迷が課題である。

<総合的な取組内容>

「地域資源カーリングを活用した知名度向上と交流人口拡大のための拠点整備プロジェクト」

地域ブランド力の向上

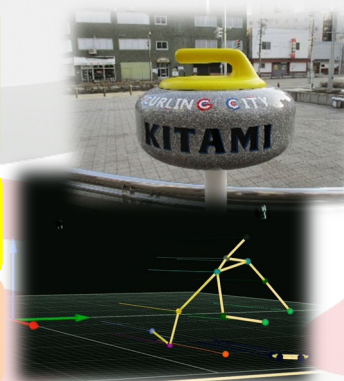
- 唯一1自治体で2つのカーリングホールがある北見市へ行ってみたいとなる
「**カーリングのまち**」のイメージを定着させ、他分野への経済波及効果を高める
- 体験型観光としてカーリングを取り入れ、また、市内にカーリングを感じられる
モニュメント等を設置

生涯スポーツ振興による健康寿命の延伸

- 皆が楽しめるカーリングを定着させ、健康増進に貢献する

地元大学との連携強化

- 世界初の競技力向上支援システムは、地元大学の研究成果を実用化したものであり稼ぐ施設として有用性を証明する



<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
 ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
 ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

歩数や体重、体脂肪率等の健康状態を見える化できるシステムを導入するほか、「無意識に楽しく、気づいたら健康になっていた」と思えるしくみづくりを進める。

【具体目標】 ○健康づくりに積極的に取り組む町民の割合 会員数/人口 3.0%→7.0%

○町民の野菜摂取量 220g→295g ○ICT技術を活用した「見える化」の強化

<PRポイント>

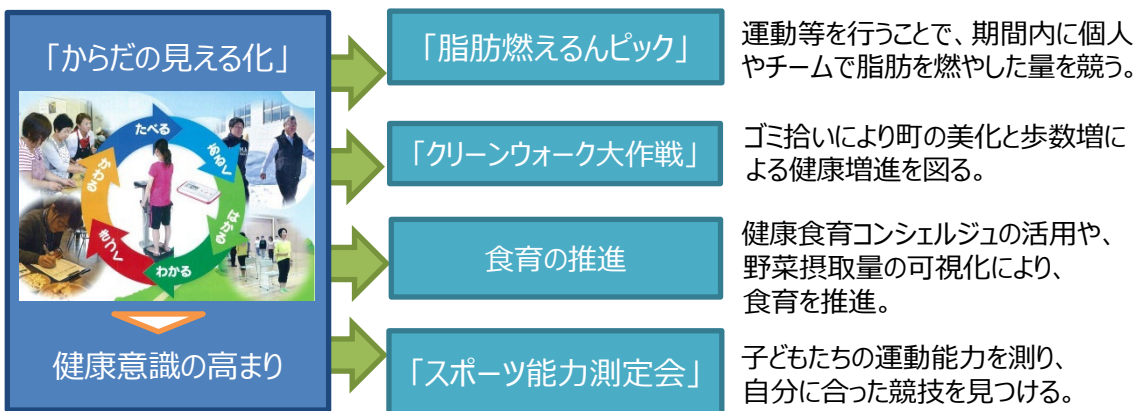
- ①【からだの見える化】…(株)タニタヘルスリンクとの連携。活動量計を活用した「歩く→測る→わかる→気づく→変わる→食べる→歩く」を体験。健康意識を高め、町民の健康状態を改善する。
 ②【健康の町化】…「町民の健康増進」を図るため、産・官・学一体となって取り組み、「健康のまち化」を進める。

<概要> 計画期間：～令和4年3月31日

<現状・課題>

東神楽町は、高齢化率が24.3%と低く、子どもの割合が多い(H27国調：年少人口率15.7%。北海道内1位)、若い世代の集まる町です。しかし、2040年には高齢化率40%を超えると予測されます。避けられない高齢化の中で、子どもから高齢者まで、思い思いのスポーツに関わり、まち全体が健康一色となるような仕組みづくりが求められています。

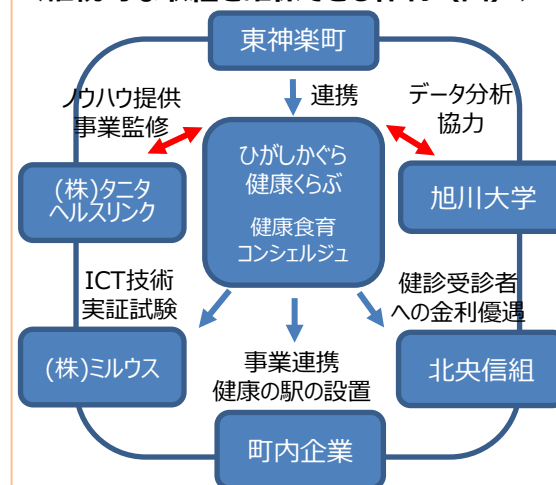
<総合的な取組内容>



『健康の町』を実現！



<継続的な取組を確保できる体制(図)>



町民の健康増進に取り組むべく「ひがしかぐら健康くらぶ」を設立。ICT技術を活用して健康状態を見える化し、仲間と一緒に楽しみながら、健康づくりにつなげられるような取り組みを多数実践！

各種基礎データ

- スポーツ部局の所屬先：地域の元気づくり課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第2期東神楽町地方版総合戦略(令和2年3月策定)
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし
- その他：なし

<目標分野> ※該当するものに全て○

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

<目標内容>

「運動習慣の普及・定着」と「高血圧ゼロのまちプロジェクト」の両輪で健康寿命を延伸！

生涯現役で社会参加できる町を実現！

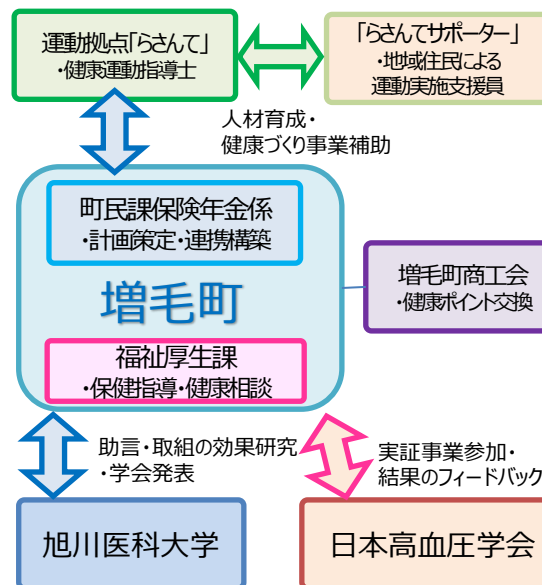
- ・運動習慣の定着でメタボ解消とフレイル予防 KPI：運動施設「らさんて」の利用者数3,600人(R2)→6,500人(R5)
- ・今活躍している人を病気から守り、人口減少でも活力を維持 KPI：65歳～74歳の介護認定率3.9%(R2)→3.0%(R5)

<PRポイント>

【入浴宿泊施設に運動施設「らさんて」の開設】・・・冬期間の運動不足解消や健康運動指導士による指導
 【「高血圧ゼロのまち」モデルタウン第1号】・・・日本高血圧学会の実証実験に参加し、高血圧対策を推進
 【高齢者がまちの労働力の担い手】・・・生涯現役で働き続けられる健康づくりにより、町の産業の衰退を防ぐ

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

○増毛町町民課保険年金係が中心となり、連携体制を構築



<概要> 計画期間：令和2年4月1日～令和6年3月31日

<現状・課題>

- ・魚介類や果物が豊富な本町の食環境と、厳しい冬期間の自然環境による運動習慣の普及と定着の難しさにより、メタボ、フレイルの状態にある住民が、関節疾患、脳・心疾患を引き金に要介護状態となり、要介護認定率が国や北海道平均よりも高い状態にある。
- ・定年のない本町の産業の強みを活かすため、町民を病気で倒れさせず、就業やスポーツ、文化活動に参加し続けられる対策が必要。

<総合的な取組内容> 増毛町まちづくりプラン基本目標「元気で長生きできるまちづくり」

（具体的事業）・企業版ふるさと納税制度を活用し各事業を推進



運動施設・健康づくり教室・サポーター育成

運動施設「らさんて」の開設により、天候等に左右されない運動環境を整備。
 健康運動指導士や地域おこし協力隊、運動実施支援員「らさんてサポーター」らによる健康づくり教室の実施等により体を動かすという習慣の普及を図ります。



運動イベントの開催

住民が気軽に参加できるよう歩数計を活用した「どこでも健康ましけウォーキング」を開催。
 日常のウォーキングの歩数を距離換算して、楽しく北海道一周を目指すことで、継続的な運動意欲を高め、心と体の健康増進を図ります。



ましけ健康ポイント事業

運動教室、スポーツイベントを始めとした健康寿命の延伸、介護予防の取り組みを推進する事業への参加にポイントを付与し、商工会商品券と引換。
 スポーツ事業等の参加と町内消費を促進します。



「高血圧ゼロのまち」プロジェクト

高血圧に起因する疾患による介護認定の割合が高く、治療者も降圧目標に達しない背景にメタボの可能性があることから、スポーツと高血圧対策の両輪で事業を進めます。

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
教育委員会地蔵学課
- 地方スポーツ推進計画
増毛町社会教育推進計画（令和3年4月）
- 地方版総合戦略：
増毛町まちづくりプラン（令和2年3月）
- 地域スポーツコミッション：無
- ホストタウンの相手先：無



4 スポーツでチャレンジ！スポーツによる持続可能なまちづくり



【問合せ先・電話番号】

壮瞥町教育委員会生涯学習課 TEL0142-66-2131

＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病氣予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

地域スポーツコミッションや総合型地域スポーツクラブと連携したスポーツによる“持続可能なまち”へのチャレンジ

ミッション 1 自然や施設など地域資源を最大限に活用したスポーツによる地域振興

ミッション 2 新たなツーリズム展開での活力ある地域づくり

＜PRポイント＞

- 豊かな自然や地域資源を有効活用した多様なスポーツ活動の推進
- 官民連携地域スポーツコミッションによるアウトドア推進と地域振興
- 総合型地域スポーツクラブと連携した「そうべつスタイル」の持続可能なスポーツ振興

＜概要＞ 計画期間：～令和7年3月31日

＜現状・課題＞

- ・インバウンド、団体中心の観光から、スポーツ・アウトドアを活用したメニューや受入環境の構築
- ・少子高齢化によるスポーツ離れに対応した「そうべつスタイル」のスポーツによる活性化推進体制の構築

＜総合的な取組内容＞ 第2期壮瞥町スポーツ推進計画「3つの柱」

＜具体的な事業＞

柱1 スポーツで人づくり

総合型地域スポーツクラブを核にした「そうべつスタイル」のスポーツ振興



柱2 スポーツで集う

地域スポーツコミッション・総合型地域スポーツクラブによるスポーツ交流



柱3 スポーツでまちづくり

地域スポーツコミッションによるアウトドア・スポーツツーリズムの推進



～スポーツで元気に持続するまちづくり～



＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

そうべつアウトドアネットワーク 事務局：壮瞥町

そうべつアウトドアネットワークが中心となり、関係機関と連携を図りながら事業を推進します。

そうべつ地遊スポーツクラブ

壮瞥果樹組合
YFC壮瞥

そうべつ観光協会
昭和新山国際雪合
戦実行委員会

壮瞥町体育協会
スポーツ少年団
近隣スポーツクラブ

教育関係
町内、近隣学校

関連する民間企業
ニセコ町観光協会との連携

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画：
第2期壮瞥町スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略：
まち・ひと・しごと創生 第2期壮瞥町総合戦略
- 地域スポーツコミッション：
そうべつアウトドアネットワーク R3.2.24設立
- ホストタウンの相手先：フィンランド共和国

【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

＜目標分野＞ ※該当するものに全て

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

将来ビジョン：Kスポと道の駅かくだを核に「明るく楽しく健康で活力あるまち」の実現

目標 インナー施策：多くの人にスポーツを楽しんでもらう（スポーツ実施率 R 8 : 5 0 %）

アウトナー施策：K スポと道の駅かくだの賑わい（道の駅かくだの売上げ R 8 : 244,000 千円）



＜PRポイント＞

【「スポーツ×道の駅」⇒かくだ版スポーツツーリズムの推進】

総合スポーツ施設 K スポに道の駅が隣接する特徴を活かし、K スポの「スポーツ」と道の駅の「食」を通じて健康等をテーマに交流人口を拡大し、スポーツ実施率・道の駅の売上げUPを目指す

【「スポーツ×○○」を市内全域へ波及⇒スポーツによるまちづくり】

スポーツを手段として地域課題を解決することで、スポーツによるまちづくりを展開する

＜概要＞ 地域再生計画の期間：～令和4年3月31日

＜現状・課題＞

- ・K スポ隣に道の駅かくだがオープン。オリパラムーブメントと相まってスポーツへの期待感の高まり
- ・スポーツ施設が老朽化し維持管理に費用がかかる一方、スポーツ事業での収益性が伴わない
- ・市内の子どもたちは肥満傾向児の割合が高く、スポーツを「する子」と「しない子」の2極化が進んでいる



＜総合的な取組内容＞

次をテーマに **K スポと道の駅が連携**《地方創生推進交付金活用》

■健康

- ・ウォーキングの拠点化（ステーション整備、観光ロゲイニング開催）
- ・特色ある健康相談（K スポの運動、道の駅の食材を紹介）
- ・運動×食×交流で介護予防（道の駅のフードコートを活用）

■子育て

- ・天然芝を活用した幼児用遊び場を整備
- 《企業版ふるさと納税活用》
- ・親子運動あそび教室を定期開催

■賑わい

- ・スポーツ大会・合宿を誘致（パラスポーツ、JFL公式戦等）
- ・アーバンスポーツ体験会を開催



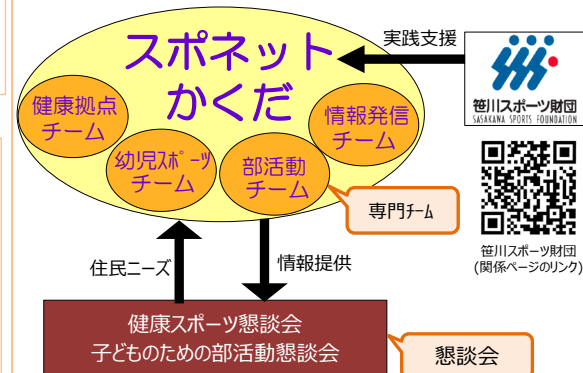
→さらに、「スポーツ×○○」を市内全体へ波及

○○：子育て…運動あそびを通して元気な子を育てる「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム《Sport in Life》のアウト活用」を展開

○○：健康増進…市民の健康づくりの日として「チャレンジデー」を開催
また、生涯スポーツにつながる地域部活動の構築を目指す

＜継続的な取組を確保できる体制＞

「スポネットかくだ」が課題や経営資源を共有し共同事業を推進（事務局：生涯学習課と総合型クラブ）



- スポネットかくだの構成団体…スポ協、スポ少、総合型クラブ、指定管理者、道の駅、仙台大学等と行政（健康長寿課、子育て支援課、教育総務課、生涯学習課）
- 地域の特色を活かしたまちづくりを行うしくみ…懇談会で住民ニーズを広く集め、専門チームでスピーディに課題解決

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
教育委員会事務局 生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画
角田市スポーツ推進計画 H31.3改定
- 地方版総合戦略
角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 R2.3改定
- 地域スポーツコミッション
スポネットかくだ R1.9 設置
- ホストタウン なし
（全日本女子車いすバスケット強化合宿支援）



<目標分野> ※該当するものに全て ✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換 ✓

<目標内容>

スポーツコミッション大館を「コア」とした 市民団体、企業、行政 の連携と協働による地域の活性化

- 【具体目標】
- ① スポーツツーリズムで新たな誘客 4千人を創出
 - ② スポーツ合宿誘致による地域経済の活性化 宿泊数 172泊 → 1,000泊
 - ③ スポーツインライフの推進とスポーツを通じた人々の交流 ボッチャ交流 50人 → 100人

<PRポイント>

◆アウトドアスポーツの推進と誘客

世界自然遺産「白神山地」東端「田代岳」のダム湖と林道・溪流を活用

◆スポーツイベント・スポーツ合宿の誘致

大館樹海ドーム・大館市樹海体育館・高館テニスコートの活用

◆スポーツインライフ・スポーツ交流の推進

スポーツを気軽に出来る環境を活かし、県内トップチームと連携して市民のスポーツ交流の場を提供



木造世界最大級
大館樹海ドーム

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・大館市は北東北3県のほぼ中心に位置し、大型ドーム施設と国体開催実績がある体育館とテニスコートを有している。
- ・秋田県の人口減少率と比較しても人口減少が進行しており、2040年の市の人口は5万1,181人となる見込み。
- ・人口の減少が地域の利便性や産業に与える影響は大きく、交流人口拡大による地域の活力維持が必要とされる。

<総合的な取組内容> 第2期大館市総合戦略「観光とスポーツによる賑わいと交流を生むまちづくり」

【具体的な事業】

■アウトドアアクティビティの創出

世界自然遺産の東端に位置する大自然を生かし
スタンドアップパドル・E-BIKE等で誘客します。

■スポーツイベント・スポーツ合宿の誘致

全国・東北規模大会の誘致活動を行い、宿泊や
飲食の経済効果による地域活性化を目指します。

■スポーツ教室・交流イベントの開催

スポーツ実施率の向上とスポーツイベントを通じた
継続的な交流人口の拡大を目指します。

■東京オリパラ競技大会レガシーの取組

タイ王国のホストタウン(ボッチャ)の事前受入を契機に
障害やパラスポーツの理解・支援体制の構築、機会の提供を促進します。

アウトドアアクティビティ イベント・合宿誘致



スポーツ教室

オリパラレガシー

ボッチャ交流

交流人口の拡大
地域の活性化



地域再生計画



第2期大館市
総合戦略

<継続的な取組を確保できる体制(図)>

大館市観光交流スポーツ部
スポーツ振興課・観光課・移住交流課

スポーツコミッション大館

【構成団体】

大館市体育協会 大館市文教振興事業団
スポーツクラブひない たしろスポーツクラブ
大館市身体障害者協会連合会
大館商工会議所 大館北秋商工会
大館市観光協会 秋田犬ツーリズム(DMO)
秋北航空サービス 北鹿新聞社
大館ケーブルテレビ 大館市

アドバイザー

日本スポーツツーリズム推進機構

事業パートナー

ブラウブリッツ秋田 秋田ノーザンハピネッツ
アランマーレ秋田 秋田ノーザンブレッツ
(株)アルビーズ コネクト(株)

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
市長事務部局 観光交流スポーツ部
- 地方スポーツ推進計画
大館市スポーツ推進計画 平成30年4月
- 地方版総合戦略
第2期大館市総合戦略 令和2年3月
- 地域スポーツコミッション
スポーツコミッション大館 令和3年3月設立
- ホストタウンの相手先
タイ王国



大館市HP



スポーツ
コミッション大館

＜目標分野＞ ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

地域の公民館を旅館業法上の宿泊可能な施設に改修し、各種スポーツ団体の合宿や本町を会場に開催されるスポーツ等の大会やイベントに参加する団体等の宿泊を受け入れ、地域の活性化を図るとともに、住民の健康と生きがいをつくる。

【具体目標】 観光施設等入込数の増加（約24万人、計105万人を目指す）

八幡スポーツ公園大会参加者数の増加（約2,500人の増加を目指す）

＜PRポイント＞

【地域の賑わいの創出】 県内外からの宿泊客の増加による交流及び滞在人口の増加

【経済効果】 町内の飲食店や道の駅、観光施設等への経済効果の促進

【生涯学習と健康づくり】 八幡スポーツ公園等の体育施設での各種大会の開催により、スポーツを通じた町民の生涯学習の充実と健康増進などの波及効果



↑ 余目第四公民館

＜概要＞ 計画期間：～令和4年3月31日

＜現状・課題＞

- 本町の体育施設は21ヶ所あり、特に八幡スポーツ公園は屋内外の人工芝施設もあり、大会等の県内外からの利用は多くあるものの、本町に宿泊施設が少ないため、町外に宿泊してしまい、本町に滞在しない傾向にある。
- 本町の高齢化率も高く、介護認定者数、介護予防サービス利用者数は増加する見込みであり、町民の健康づくりが重要となっている。

＜総合的な取組内容＞

豊かな自然・人や施設を活かした、地域の賑わいの創出と、健康と生きがいをつくる生涯スポーツの推進

【具体的事業等】

■ 庄内町余目第四公民館を改修（旅館業の許可）

※ 地方創生拠点整備交付金を活用し改修
スポ少等の合宿や大会参加のための宿泊受け入れ

■ 県内外からの誘客イベントの開催

月山龍神マラソンなど

■ 合宿に係る費用を一部補助

庄内町スポーツ文化合宿支援事業費補助金の交付

■ チャレンジデーへの参加（笹川スポーツ財団主催）

多くの町民の参加により、健康づくりや地域活性化、スポーツを通じたまちづくりを図る



地域再生計画

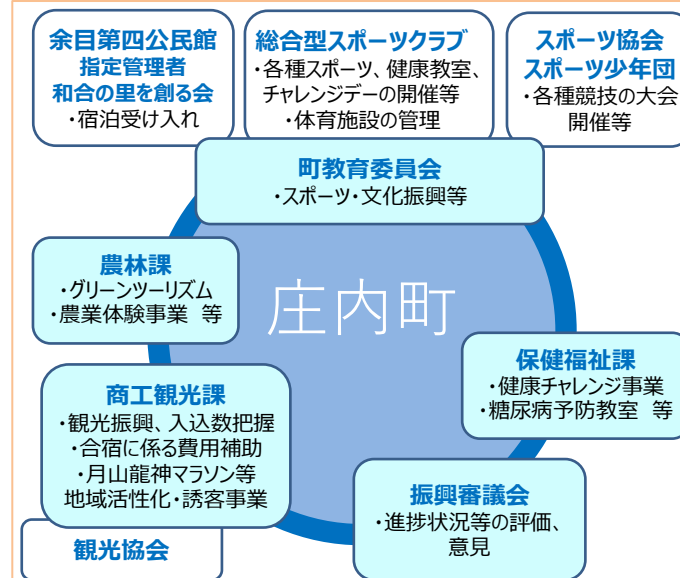


八幡スポーツ公園



八幡スポーツ公園

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会社会教育課
- 地方スポーツ推進計画：なし
（現時点では教育振興基本計画に包括）
- 地方版総合戦略：
庄内町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし
- 庄内町余目第四公民館指定管理者
和合の里を創る会
- 地域総合型スポーツクラブ
（一社）コメっちわくわくクラブ



和合の里を創る会



コメっちわくわくクラブ



＜目標分野＞ ※該当するものに

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かして楽しむ「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

世界レベルのスケートパークを活用して「スケートボードの聖地」へ

目標 1：スケートボードにおいて、国内トップクラスの地域イメージ・地域ブランドを確立

目標 2：地域経済への波及効果の高いスケートボード大会やイベントの実現

目標 3：取り組みを通じて得た経験やノウハウにより、ゴルフや障がい者スポーツなどへの展開を図る

パーク利用者
20,000人／年



＜PRポイント＞

【ムラサキパークかさま】スケートパークを活用した地域ブランドの確立と大会・イベントの誘致

- ◆初心者から上級者まで楽しめるセクション構成 ◆雨でも利用可能な広々屋内ゾーン
- ◆観覧しやすいスタジアム形式のロケーション ◆豊富なレンタルで手ぶらで来場OK ◆夜間照明も充実

【地域資源との連携】笠間の持つ個性的で魅力的な地域資源と連携し、交流人口を拡大

- ◎陶芸体験（かさましこ日本遺産） ◎笠間稲荷神社 ◎道の駅かさま（栗をはじめとした特産品） など



＜概要＞ 計画期間：～令和6年3月31日

＜現状・課題＞

- ・少子高齢化、人口減少の社会背景の下、持続可能な地域活力の維持のためには、交流人口の増加が欠かせない。
- ・市内観光は宿泊客の割合が低いことや、イベント中心の観光誘客であり季節変動が大きいことなどの課題を有している。
- ・主要な観光資源として笠間焼をはじめとする伝統・文化にかかわるものが多いため、若年層への訴求力が低い。

＜総合的な取組内容＞

笠間市ひと・まち・もの創生推進計画に掲げる

「将来にわたって活力ある笠間市をつくる」の実現に向けて取り組む
⇒ 企業版ふるさと納税等を活用

①大会・イベント開催

「プロ向け」のハイレベルな大会、「ジュニア向け」のキャンプ（合宿）など、ターゲットの異なる大会・イベント開催により、地域への効果を検証

②スポーツツーリズム

スケートボードと地域資源を掛け合わせたモニターツアーなどを通じ、アーバンスポーツツーリズムの可能性を調査検証

③持続可能性向上の取り組み

市内学校（小中高）との連携強化、競技の裾野拡大
スポーツコミッションの機能強化
スポーツボランティアの組織・育成



ムラサキパーク かさま

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
教育委員会 教育部 スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：
笠間市スポーツ推進計画（平成30年3月）
- 地方版総合戦略：
笠間市ひと・まち・もの創生推進計画（令和2年3月）
- 地域スポーツコミッション：
笠間スポーツコミッション（令和3年3月発足）
- ホストタウンの相手先：フランス・アメリカ（スケートボード）
エチオピア（陸上） 台湾・タイ（ゴルフ）



笠間市公式HP

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- 『自転車』と『筑波山ジオパーク』をテーマに、廃校整備（ハード）とレンタサイクル事業等（ソフト）を効果的に組み合わせ、
- 回遊性向上・人流創出：「旧筑波町エリア」を中心としたつくば市全体、さらに、近隣自治体を含む広域での人流創出！
【数値目標：令和7年度の拠点来場者数16,000人】
 - 健康増進：自転車拠点をトリガーとして『自転車』利用を強力に推進することで、市民の健康増進！

<PRポイント>

- ①【廃校 × 自転車 × ジオパーク】廃校リノベーションによる交流人口の拡大→地域振興を実現！
- ②【ナショナルサイクルルートの高付加価値化】隣接する「つくば霞ヶ浦りんりんロード」来訪者の利便性向上！
- ③【弱虫ペダルサイクリングチームと協働】弱虫ペダルのネームバリューによる集客効果向上！
（令和3年7月6日につくば市と弱虫ペダルサイクリングチームとの連携協定を締結）

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

旧筑波東中学校(廃校) ※地域振興の拠点

自転車拠点

（つくば市都市計画部サイクルコミュニティ推進室）

つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会
（茨城県・土浦市・石岡市・鹿嶋市・潮来市・稲敷市・
かすみがうら市・桜川市・神栖市・行方市・鉾田市・
小美玉市・美浦村・阿見町）

⇒市町村域を跨いだ広域レンタサイクルやツアー実施等

弱虫ペダルサイクリングチーム

⇒BMXレーシングコースの管理や自転車の点検・修理等

ジオパーク中核拠点

（つくば市経済部ジオパーク室）

筑波山地域ジオパーク推進協議会
（石岡市・笠間市・桜川市・土浦市・かすみがうら市）

⇒各自治体のジオパーク拠点を結ぶバスツアーの実施等

認定ジオガイド

⇒ジオパーク中核拠点の案内やツアーガイドの実施等

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
市民部スポーツ振興課(市長事務部局)
- 地方スポーツ推進計画
つくば市スポーツ推進計画(平成31年2月策定)
- 地方版総合戦略
第2期つくば市戦略プラン(令和2年3月策定)
- 地域スポーツコミッション：無
- ホストタウンの相手先：スイス連邦
- その他
SDGs未来都市(平成30年選定)
つくば市自転車安全利用促進計画(平成27年4月策定)



自転車のまちつくば



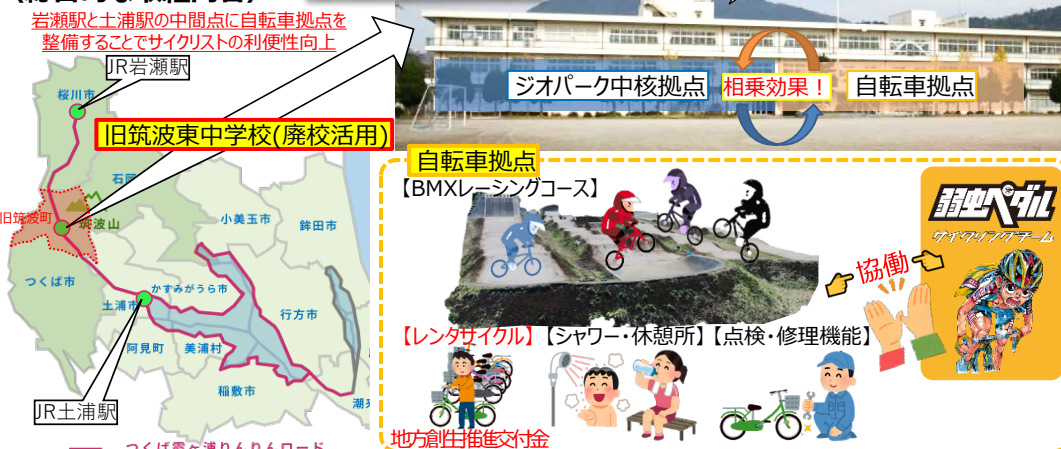
弱虫ペダル
サイクリングチームと
連携協定締結

<概要> 計画期間：～令和8年3月31日（令和5年度中にOPEN予定）

<現状・課題>

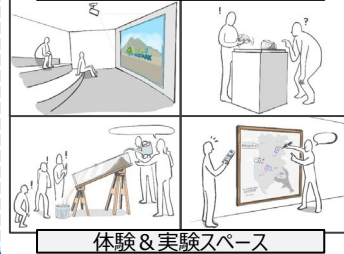
- つくば市の中心エリアでは人口が増加しているが、周辺エリアである「旧筑波町エリア」では人口減少と高齢化が進行しており、公共サービスや社会経済の維持等の持続可能な地域社会の継続が危惧される状況
- 自転車とジオパークにとって好立地に廃校が存在（「つくば霞ヶ浦りんりんロード」から約200m、筑波山から約2km）

<総合的な取組内容>



ジオパーク中核拠点

展示スペース



体験・実験スペース

サイクリング、BMX、登山等、多様な目的を持った来訪者を、地域資源である『筑波山ジオパーク』やその他の市内観光、飲食等へと誘導！

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ☑ ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
 ☑ ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病予予防
 ☑ ③ 自然と体を動かして「楽しいまち」への転換

<PRポイント>

●オリンピック基準の施設や世界大会の開催が可能な施設など高水準の各種スポーツ施設の整備

2020東京五輪を機に、オリンピック基準のホッケー場及びテニスコートを整備した他、2024パリ五輪に向け競技人口が増加している、BMXやスケートボード等のアーバンスポーツが実施可能な世界レベルのアーバンスポーツパーク等、高水準で各々の競技レベルの向上にチャレンジできる環境を整備。

●世界レベルのアーバンスポーツパーク整備による新たな世代のアスリート創出

2020東京五輪から正式種目となり、若手選手の活躍が目覚ましいBMXフリースタイルやスケートボード等が行える世界レベルの施設を整備したことにより、世界的大会等を開催できトップアスリートの育成や競技人口の増加につながる場を提供。技量を磨きたい若い世代の競技者を抱える世帯の移住・定住施策にも繋がる。

●健康促進を目的としたトレーニングジムの整備

老若男女問わず健康を促進するため、人気の有酸素運動マシンをはじめ、各種多様な器具・マシンを揃えた本格的なトレーニングを行えるジムを整備。

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

【現状・課題】

町の魅力を向上し、交流人口の拡大に繋げるべく、これまで、観光拠点である「道の駅さかい」に世界的建築家である隈研吾氏が設計した「さかい河岸レストラン 茶蔵」等を整備した他、同氏設計の建築物を計6施設整備するなど、観光コンテンツの造成や開発に努めている。

現在、核となる観光コンテンツの一つとして、当町においての夏の風物詩である「利根川大花火大会」がある。年に一度開催される本大会は、2019年(令和元年)には全国5位の2万3,000発を打ち上げ、総観覧者数約25万人を誇る一大イベントとなっているが、多くの方が日帰り来訪者である。

そのため、通年来訪していただき、「街なかへの回遊」及び「滞在時間の増加による宿泊」や「消費額の向上」に結び付けていく新たなコンテンツが必要であり、かつ、移住定住者の確保及び住民の健康促進等にも繋げるべく、「スポーツを活用したまちづくり」を推進していく。



茨城県境町の歴史



道の駅さかい公式HP



境町観光協会公式HP



境町で開催される「利根川大花火大会」の様子



隈研吾氏が設計した「さかい河岸レストラン 茶蔵」(左)と「モンテネグロ会館」(右)



境町の風景

【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標内容> スポーツを軸にした持続可能な交流人口拡大・健康まちづくりの実現

【具体的目標】

- ① 交流人口の拡大 <交流人口：約70万人(令和元年)→ 約200万人(令和6年)>
 ② 移住・定住の促進 <社会増減数：40人(令和元年)→ 300人(累積、令和2年～令和6年)>
 ③ 健康促進 <スポーツ施設利用者等数：約8万人(平成30年)→ 約9万人(令和6年)>

【総合的な取組内容】

- 世界大会をはじめとした各種スポーツ大会・合宿等の誘致
 ●健康づくりのための各スポーツ施設及びトレーニングジムの利用促進
 ●スポーツ施設と隈研吾氏設計建築物を軸としたツーリズムの促進



<継続的な取組を確保できる体制(図)>

町・DMO・各施設の指定管理事業者が連携し、スポーツ大会や合宿等の誘致等事業を推進

町

(スポーツ・健康推進・観光等の関係部門含む)

- ・全体取りまとめ
 ・受入れ整備(主にハード面)
 ・スポーツ大会や合宿時における関係各所との各種調整等

DMO
(「株」さかいまちづくり公社)

- ・スポーツツーリズム等の観光コンテンツ開発
 ・多様な関係者との連携調整等

指定管理事業者

- ・受入れ整備(主にソフト面)
 ・イベント等企画等

外部アドバイザーとの連携

境町戦略会議委員

(国・大学・民間企業等のメンバーで構成)

- ・町が実施する事業について指導・助言等を行う

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：企画部地方創生課
 教育委員会生涯学習課
 ●地方スポーツ推進計画：なし
 ●地方版総合戦略：第六次境町総合計画(令和元年3月改訂)
 ●地域スポーツコミッション：なし
 ●ホストタウンの相手先：アルゼンチン共和国
 ●その他：境町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年3月改訂)



第六次境町総合計画(令和元年3月改訂)



境町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年3月改訂)

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防✓
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換✓

<目標内容>

Society5.0を体現した文化スポーツ複合施設「未来体育館」の整備による、持続可能な地域づくりの実現

- 【具体目標】 ①スポーツ交流人口と経済波及効果の増加（経済波及効果を今後5年間で50%増加）
②人口減少に適応した市民の健“幸”づくりへの取組み（医療費抑制を目的とした市民の健康づくり）

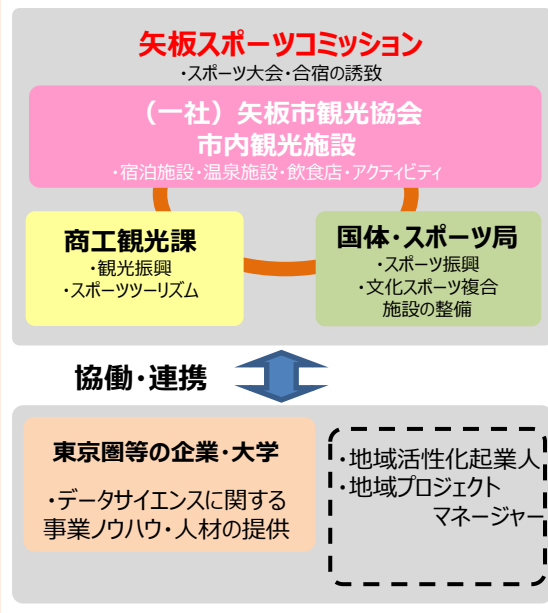
<PRポイント>

【Society5.0】ローカル5G・4Kカメラ・AIなどの未来技術により、利用者データを活かした高付加価値のサービスを提供。

【観光消費増加、医療費削減、デジタル教育】スポーツ団体の合宿や市民の健康増進、スポーツ分野のデジタル教育など、幅広い利用を促すことで、観光消費額の増加、医療費の削減、スポーツ教育のレベルアップなど多様な効果を創出。

<継続的な取組を確保できる体制>

矢板スポーツコミッションが中心となり、事業を推進します。



<概要> 計画期間：～令和8年3月31日

<現状・課題>

- ・矢板市は近隣有名観光地への通過点で、1日をととして滞在できる観光施設やスポーツ施設が少なく、観光消費が少ない地域。
- ・近年需要の多いスポーツ大会・合宿を確実に取り込み、滞在型観光の実現に向けたインセンティブのある施設環境の整備が必要。
- ・市民の健康増進や子どもの運動の成果を可視化するため、データに基づく健康指導やスポーツ教育が出来る環境が必要。

<総合的な取組内容>

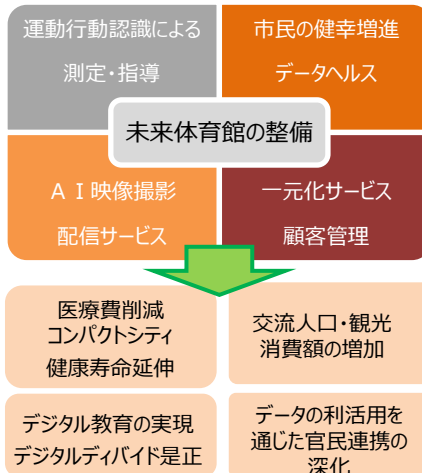
やいた創生未来プラン基本目標

「来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる」
～交流人口、関係人口の創出・拡大～

【具体的事業】

- 矢板市文化スポーツ複合施設「未来体育館」の整備
新たなスポーツ大会・合宿や健康づくりの拠点となります。
- スポーツツーリズムの深化
スポーツ大会・合宿の誘致を推進します。
- 観光拠点づくり
宿泊施設などの誘致により滞在型観光を進めます。
- 今ある施設への誘客（多機能化・顧客深耕化）
施設間の連携により周遊性を高めます。

「未来体育館」を核とした、持続的な地域づくり



複合施設 完成イメージ



市内にある「とちぎフットボールセンター」の敷地内に、地方創生拠点整備交付金を活用して整備



地域再生計画



複合施設整備基本計画

各種基礎データ

- スポーツ局の所属先
教育委員会事務局 国体・スポーツ局
- 地方スポーツ推進計画
矢板市生涯学習推進計画・令和3年4月
- 地方版総合戦略
やいた創生未来プラン・令和3年3月
- 地方スポーツコミッション
矢板スポーツコミッション・平成30年4月発足
- ホストタウンの相手先
ハンガリー



矢板市公式HP



矢板スポーツコミッション

＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病氣予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

稼げる地域をつくり、安心して働けるようにする

地域で連携し、安心して魅力的なまちをつくる

銚子市
総合戦略



新しいつながりを築き
ひとの流れをつくる

若い世代の希望を
かなえ、誰もが活躍
できるまちをつくる

スポーツ交流人口の増加

スポーツ教室やスポーツイベント・大会を誘致・開催して交流人口を増やし、地域のスポーツ振興の活発化、スポーツ合宿の誘致を促進する。

宿泊観光客数の増加

銚子市の豊かな自然、食を活かした魅力的な長期滞在型アクティビティモデルを開発し、スポーツツーリストや宿泊観光客数の誘客を促進する。

＜PRポイント＞

- 野球場、体育館が目の前！！スポーツ施設と一体となったスポーツ合宿に最適な環境を提供
- 銚子市の豊かな自然を活かした魅力的なアクティビティモデルの提供

＜概要＞ 計画期間：～令和7年3月31日

＜現状・課題＞

- 進む少子高齢化、人口減少に伴い、地域のスポーツ活動の場が減少している。
- 都心部から近いこともあり、観光客は日帰りの割合が多数を占めており、長期滞在型の観光コンテンツを開発する必要がある。

＜総合的な取組内容＞

銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略 ～新しいつながりを築き、ひとの流れをつくる～

【具体的な事業】

スポーツ合宿施設銚子スポーツタウンを拠点としたスポーツツーリズムの促進

■銚子スポーツタウンを拠点とした スポーツ大会・イベントの開催や合宿誘致の支援

プロチームや地元出身の元プロアスリートと連携して、スポーツ教室など継続的なスポーツ活動を実施し、地域のスポーツ振興、健康増進を図るとともに、魅力的な大会やイベントを開催・誘致し、交流人口の増加を図り、市内経済の活発化へと波及させる。

■銚子市の魅力的な観光資源を利用したアクティビティを創出

市内事業者と連携して長期滞在型のアクティビティモデルを開発し、スポーツツーリストの誘客、市内周遊の活発化を図る。



産業の活性化・人の流れの創出

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

銚子スポーツコミュニティを中心として、
銚子スポーツタウンを拠点に事業促進



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：社会教育課スポーツ振興室
- 地方スポーツ推進計画：無し
- 地方版総合戦略：第2期銚子市しごと・ひと・まち総合戦略（令和2年3月策定）
- 地域スポーツコミッション：銚子スポーツコミュニティ（平成26年5月1日設立）
- ホストタウンの相手先：台湾

＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
 ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
 ③ 自然と体を動かして「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

「オリパラ・レガシー」として注目が集まる「スケートボードの聖地化」を図り、交流人口と経済的効果を創出

【具体目標】官民一体となった推進組織「スポーツコミッション」が中心となり、スケートボードの国内拠点を活かし、施設の継続利用・愛好者の増加、キラコンテンツの創出、育成の拠点化を図る

＜PRポイント＞

【屋内施設環境】天候に左右されない**国内最大級の屋内スケートパーク**を最大限に活かすための**仕組みづくり**。

【多様なコンテンツ】瀬波温泉を始め、「城下町」「自然」「食」など地域の観光資源と連携したプラン、合宿・大会パッケージツアーなど、**個別ソフト事業を展開**。

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

むらかみスケートボードコミッション（仮）

日本スケートボーディング
連盟

・指導者・競技団体との連携

村上市スケートパーク

・生涯学習課スポーツ推進室

村上市観光協会
市内観光施設

・宿泊施設・飲食店等

瀬波温泉旅館
協同組合

・瀬波温泉旅館・ホテル

全国の企業との連携

・事業ノウハウの提供・企業版ふるさと納税

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先 教育委員会
- 地方スポーツ推進計画
村上市教育基本計画
・平成29年3月
- 地方版総合戦略
まち・ひと・しごと創生第2期
村上市総合戦略・令和3年3月
- 地域スポーツコミッション
むらかみスケートボードコミッション（仮）
令和4年3月設立予定



地域再生計画



村上市スケート
パークHP

＜概要＞ 計画期間：～令和7年3月31日

＜現状・課題＞

- ・スケートパーク（アリーナ）の利用は市外・県外客が多いが施設利用に留まり、地域経済へ波及する取組ができてない。
- ・現在需要の多い修学旅行の体験施設として、引き続き瀬波温泉を宿泊地として利用いただける受入体制の充実が必要。
- ・スケートボードの聖地に近づくため、観光やまちづくり、地域経済に波及する仕組み作りが必要。

＜総合的な取組内容＞

スケートボードの聖地「むらかみ」セカンドプロジェクト

【具体的な事業】

- むらかみスケートボードコミッションの設立（仕組みづくり）
恒常的にソフト事業を実施するための仕組みを作ります。
- クラス別スケートボード教室の開催（愛好者の増加）
技術に応じた選手育成を行い、パークの継続利用を図ります。
- 市内大会及び国内メジャー大会の開催（キラコンテンツ）
市外からの参加者や選手家族、観覧者による交流の拡大、地域振興を図るためのコンテンツを創出します。
- 国内・海外からの合宿誘致（育成拠点化）
隣接する温泉地域を活かしながら、地域全体として、継続的にスケートボード選手を輩出する育成の拠点化を図ります。



交流人口の拡大・経済的効果の創出

【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

健康づくりとまちづくりの融合による「歩くライフスタイルの推進(とほ活)」による、持続可能な都市の実現

【具体目標】 全人口に占める公共平均利用者数の割合の増加（令和6年度までに0.1%の増）
中心市街地における歩行者数交通 1 日の増加（令和6年度までに休日3,500人/日の増）

<PRポイント>

①【健康づくりとまちづくりの融合】

歩く行動がもたらす、健康とまちへの双方の効果に着目した全市的な戦略とアプリを通した歩く生活の実現

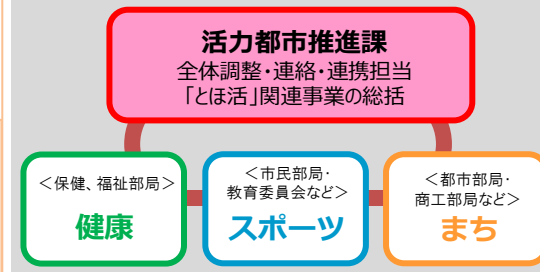
②【キャッチコピー「とほ活」の普及】

市民への浸透を図るためのキャッチコピー「とほ活(=富山で歩く生活)」と官民連携による普及啓発の実現

<継続的な取組を確保できる体制(図)>

《歩くライフスタイル戦略会議（富山市）》

富山市役所内において、部局分野横断的な組織を形成し、全市的な歩くライフスタイルの推進を総合的に連携・調整



協働・連携

《民間事業者・教育機関ほか》

- ・連携イベントやアプリの利用促進などの普及啓発に関する連携
- ・「とほ活」ベンチプロジェクトへの企業版ふるさと納税等による寄付
- ・高校や大学などの教育機関への講座や連携事業の実施 など

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
市民生活部スポーツ健康課
- 地方スポーツ推進計画
第2次富山市スポーツプラン
- 地方版総合戦略
第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし

<概要> 計画期間：～令和6年3月31日

<現状・課題>

- ・市民の多くが過度に自動車に依存した生活を送り、自動車を自由に使えない市民にとっては極めて生活しづらいまちとなっている。
- ・人口減少・高齢社会の本格的な到来を控え、平均寿命と健康寿命の乖離が進行し、将来的な社会保障費等の増加が懸念される。
- ・高齢者の外出機会の減少や行動範囲の縮小により、地域経済や活力、コミュニティの喪失が懸念される。

<総合的な取組内容>

「第2期 富山市まち・ひと・しごと総合戦略」基本目標
生活環境の一層の充実を図る
～すべての世代が安心して暮らせるまち～

【具体的事業】

■歩くライフスタイル推進事業

市民の歩くライフスタイルへの転換を促し、将来市民が健康で幸福に暮らす活力ある都市の創造に向けて、「とほ活」を通した様々な取り組みにより、SDGsの実現を目指す。



歩く施策の推進
官民の連携



○スマホアプリ「とほ活」の開発 ～グッドデザイン賞2021受賞～



歩く、公共交通利用、イベント参加といったまちづくりに寄与する一連の歩く行動にポイントを付与し、健康づくりとまちづくりの相互を実現

○官民連携による「とほ活」の普及啓発

プロスポーツチームや地元の信用金庫などと連携し、イベントやポイントラリーの開催、従業員の「とほ活」アプリの利用促進などを通じ、歩くライフスタイルの普及を推進



○「とほ活」ベンチプロジェクト事業

企業版ふるさと納税や寄付等を活用し、中心市街地等における主要な歩行動線上の道路や公園、公共施設の近く等に設置し、中心市街地の活性化や外出機会の創出、公共交通の利用促進に寄与



＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

- ・健康寿命の延伸等による誰もが健康で活躍できるまちの実現
数値目標：令和7年度末までに健康寿命を男性80.1歳、女性84.1歳へ延伸を目指す！（現状：男性79.6歳、女性：83.9歳）
- ・スポーツ交流人口の増加・地域経済の活性化
数値目標：令和7年度末までに年間のスポーツ合宿を30件誘致する！（現状：年間20件前後）
- ・優れた住環境や子育て施策による移住・定住促進につなげ、「ひと|まち|しごと」の好循環の確立

<PRポイント>

【スポーツ振興拠点施設を中心とした多様な事業及び地域活性化】

市の「スポーツ・健康の森公園」には、これまで陸上競技場や多目的芝生広場等の屋外施設しか整備されておらず、スポーツ環境が天候に左右されるという問題があった。屋内運動場(KENKO DOME)を建設・活用し、**トップアスリートによる講習会の開催、高齢者が運動習慣を身に付ける運動教室の開催や、スポーツ合宿等の誘致及びスポーツ観光との連携を目指す。**

＜概要＞ 計画期間：～令和8年3月31日

〈現状・課題〉

- ・富山県は年間の降水日数が多く、雪や雨等の気象条件に左右されるアウトドアスポーツが実施できない時期がある。
- ・天候の良し悪しにより、計画的なスケジュールやメニューでのスポーツの実施が困難である。

〈総合的な取組内容〉

「ひと・まち・産業が
元気なまち 滑川」

「ひとが元気」

- ・子ども第一主義の継続
- ・誰もが生涯元気で活躍できるまちづくり

滑川市屋内運動場(KENKODOME)



地方創生拠点整備交付金を活用し整備(H30)

・トップアスリート講習会



宇津木妙子さんによる講習会

・スポーツ・健康づくり
推進事業



高齢者健康づくり教室

「産業が元気」

- ・安心して働くことのできる雇用の場の確保
- ・地域経済が活気に満ちたまち

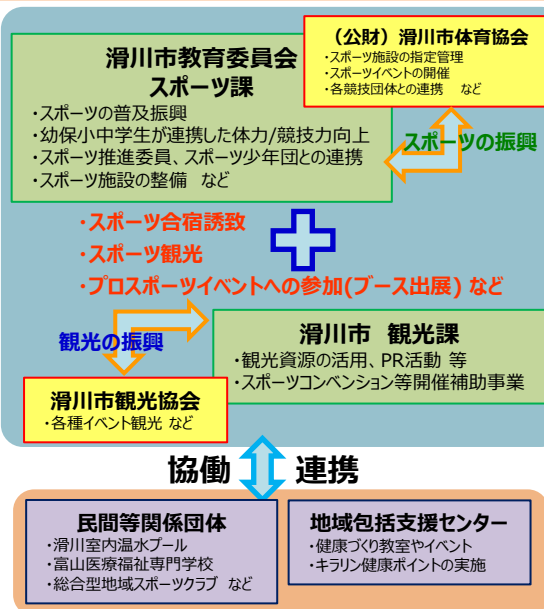
・スポーツ合宿の誘致
30件／年を目指す

・スポーツ合宿の誘致
30件／年を目指す



ほたるいか海上観光(4~5月)

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
滑川市教育委員会 スポーツ課
- 地方スポーツ推進計画
滑川市生涯スポーツプラン（H28～R7）
- 地方版総合戦略
第2期滑川市総合戦略
（第5次滑川市総合計画）令和3年3月



滑川市イメージアップキャラクター
キラリン & ピッカ



滑川市公式H



滑川市総合計画



滑川市生涯

＜目標分野＞ ※該当するものに全て

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

多世代での総合的な子育て支援として、遊び体験を通じた「子ども健やか心身成長プロジェクト」を実現

【具体的目標】

- ① 総合的な子育て支援により市民の転出抑制、移住促進を図る。（2024年度までに社会人口増80人）
- ② 子育て世代への健康増進事業の実施により、年間出生数の増加を図る。（2024年度までに300人→308人）
- ③ 公園全体での運動体験ゾーンとして活用し、2024年度で年間集客12万人を目指し、地域の振興を図る。

＜PRポイント＞

①【子どもたちが天候に左右されることなく、のびのびと運動できる空間】

⇒高さ約10メートルの巨大ツリーなど「非日常」を体感できる空間を提供し、子どもの運動能力・想像力・精神力を養う。

②【子どもの健やかな成長をバックアップ】

⇒「親子での運動が可能な多目的ルーム」、「子育て相談・託児を行うミーティングルーム」の整備に加え、運動指導士、保育士が常駐し、親子の健康相談、子の成長への悩み相談等子育て世代への情報提供とサービス提供が可能

＜概要＞ 計画期間：～令和7年3月31日

＜現状・課題＞

- ・雨天や曇天の多い北陸地方特有の天気では、子どもたちが年間を通して身体を動かした遊びができないことに加え、遊びの代替として近隣の大型商業施設へ若い世代が流出し、域内での消費活動も停滞するなどの悪循環が生じている。
- ・市民ニーズの変化、競技人口の減少により遊休状態にある体育施設の有効利用の必要性があった。

＜総合的な取組内容＞

大規模改修が必要な体育館を、子育て世代の遊び場確保を兼ねた『健康増進施設』として再整備（地方創生拠点整備交付金を活用）し、市外からの交流人口流入を図る。～市内からの転出抑制、移住促進（子育て世代に選んでもらえるまちづくりの展開）～

◎ 具体的な取組

■「遊びを通じた健康増進」につなげる仕掛け

- ・巨大スロープや「登る」動作により体幹を鍛える遊具の設置
- ・他の市内運動施設との連携・利用促進につなげ、子育て世代の健康増進を確保
- ・スラックラインなど屋外の公園施設を活用した運動遊び体験の実施

■ 子育て世代への情報・サービス提供の中核・拠点としての取組

- ・子どもも総合センターと連携した、親子参加型事業の展開による子育て世代の集客
- ・保護者世代だけでも集まりやすい空間の提供

■ 地域の賑わい創出の取組

- ・産直マーケットの開催など、世代を超えた交流を図ることができる仕組みの提案

巨大ツリーで木登り気分を味わう



公園施設を活用した屋外体験



託児付きヨガ教室でリフレッシュ

出産後の不安解消(産後ケア事業)

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

総合型地域スポーツクラブ

〔指定管理者〕

- ・市内運動施設との連携
- ・運動を主眼にした自主事業の実施

あそびの森かほつくる

大学研究室

- ・遊びを通じた健康増進支援
- ・ニーズ分析、イベント提案

地元自治会
(小学校区)

かほく市子ども
総合センター
(子育て支援課)

- ・特産品の提供や地域住民を講師とした昔あそびのモノづくり体験

- ・親子健康相談や子育て相談など、子育て支援のバックアップ

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
かほく市教育委員会 スポーツ文化課
- 地方スポーツ推進計画
第2期かほく市教育振興基本計画
- 地方版総合戦略
第2期かほく市創生総合戦略推進計画
- 地域スポーツコミッション
なし（R5年度に向けて検討中）
- ホストタウンの相手先
なし
- その他



かほく市HP



あそびの森かほつくるHP

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病氣予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

地域観光DMOの設置によるマウンテンスポーツを中心とした通年型マウンテンリゾートとしての誘客できる街づくり

【具体目標】①通年型マウンテンリゾートとして年間観光誘客数100万人。

- ②アクティビティの更なる充実を図り、施設や雇用を生むサービス開発、特にサマーシーズンのアクティビティや事業開発の推進。
- ③マウンテンスポーツ振興による健康づくりと山の楽しさを年間通して村全体で感じられる環境整備の推進

<PRポイント>

- ①【地域観光DMO】2023年設立を目指し、野沢温泉村、株式会社野沢温泉（スキー場運営会社）、観光協会、旅館組合、商工会など自治体と民間が一体となって総合戦略の実施主体、事業の受け皿を経営するなど更に官民一体となった地域づくりを進めます。
- ②【ウェルビーイングビレッジ】四季を通じて、住民も滞在いただいたお客様も村内の自然、遊び、スポーツ、食事、温泉などにより自然と体を動かし、免疫力を高め、身体も心も元気になる街づくりを進めます。

<概要> 計画期間：～令和12年3月31日

<現状・課題>

- ・野沢温泉村は「温泉とスキーの村」として知られ、多くの村民が主要産業である観光業に従事しているが、冬季観光がメインとなっており、自然・環境を最大限に生かした四季を通じた通年型マウンテンリゾートへの変革が求められている。（観光振興と地域振興）
- ・少子高齢化を背景とする生産年齢人口の縮小による担い手不足解消を図り、主要産業における若手育成、担い手拡充の推進が必要。
- ・サマーアクティビティ充実を図り、通年雇用の拡大による定住促進、年間をとおしてスポーツを軸にした観光地域づくり、街づくり推進が必要。

<総合的な取組内容>

野沢温泉村長期振興総合計画（野沢温泉村の将来像）
「胸湧きたち 未来へ歩み続ける 湯の郷・野沢温泉」

【具体的事業】

■広域観光DMO（野沢温泉スノーリゾート協議会）の設立（仕組みづくり）

- ・恒常的にソフト事業を実施するための仕組みを作ります。

■マウンテンスポーツ振興（夏季誘客促進）

- ・サマーゲレンデの活用（夏季トレーニング環境整備、デジタル技術を活用した未来型レッスンや検定システムの構築）、多様なアクティビティ（ヒルクライム、マウンテンバイク、SUP、カヌー、トレイルランニング、トレッキングなど）の充実及び環境整備を図ります。

■ウィンタースポーツ振興（冬季誘客促進）

- ・国際大会や都府県単位のウィンタースポーツ大会、障がい者スポーツ大会の招致やスキー修学旅行、合宿の誘致を更に進めます。

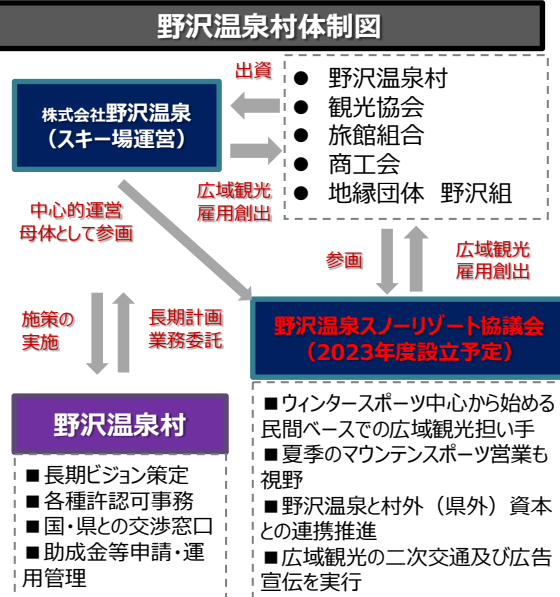
- ・インバウンドファミリー層向けのスキー検定や教程の開発を推進します。

■通期通年型の雇用確保（冬季従事者の活用、観光と農業の一体奨励）

- ・マウンテンスポーツ振興にスキーコーチなど冬季観光従事者を活用します。
- ・半農半X施策のひとつとして、冬季観光従事者による夏季農業従事推進を図ります。
- ・地元食材を使った食品開発、加工品開発の推進と地産地消の推進を図ります。



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
教育委員会事務局生涯学習係
- 地方スポーツ推進計画
野沢温泉村教育振興基本計画：平成27年
- 地方版総合戦略
地方創生総合戦略：平成28年
第6次野沢温泉村長期振興総合計画：令和2年
- 地域スポーツコミッション
野沢温泉スノーリゾート協議会：令和5年設立予定

<目標分野>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ☒
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ☒
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換 ☒

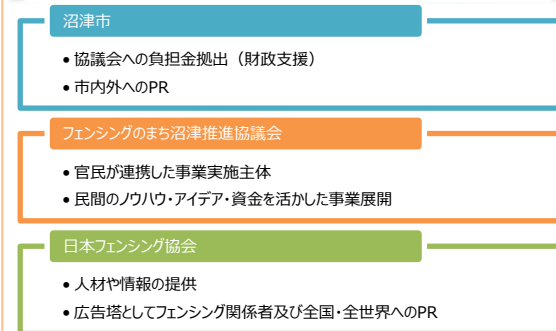
<目標内容>

- 「**フェンシングのまち沼津**」というブランドを確立し交流人口の拡大による**地域産業の活性化**を目指す。
-  沼津から**金メダリスト**を輩出する という「**夢**」を持って取り組んでいきます！
-  沼津に**世界大会**を誘致する

<PRポイント>

- ①【日本フェンシング協会との協力体制】・・・日本フェンシング協会と**全国初の包括連携協定**を締結し、中央競技団体である日本フェンシング協会と**協力・連携**しながら事業を継続していく。
- ②【官民連携による取組】・・・**官民連携組織**の「フェンシングのまち沼津推進協議会」が事業の実施主体となり、民間からも資金を集め、ノウハウやアイデアを取り入れた**持続性のある事業を展開**していく。

<継続的な取組を確保できる体制>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：産業振興部 ウィズスポーツ課
- 地方スポーツ推進計画：沼津市スポーツ推進基本計画
- 地方版総合戦略：第2期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 地域スポーツコミッション：フェンシングのまち沼津推進協議会（令和2年6月10日設立）
- ホストタウンの相手先：カナダ
- その他：フェンシングのまち沼津推進協議会会員数40者（資料作成時点）



「フェンシングのまちNUMAZU」ホームページ↑

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/fencing/>

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

〈現状・課題〉「フェンシングのまち」となるためには、フェンシングの認知拡大と支援層の拡大が必要。

〈総合的な取組内容〉フェンシングを「**知る**」、フェンシングに「**関わる**」、フェンシングで「**育てる**」をキーワードに事業展開



【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

オリンピック・レガシーとして地域に自転車文化を創造、交流人口の増加により新たな産業・雇用を誘致

【具体目標】

※本計画は、まちづくり総合計画の目標1、4に対する取組として実施

- ① 国内外から多くのサイクリスト、自転車競技者が訪れ、交流する地域（人が集い活力あふれる産業を育てるまちづくり）
- ② 市民の多くが自転車に親しみ、サイクリストを理解し、温かくもてなす地域社会（富士山のように大きな心を持った人づくり）



<PRポイント>

【地域資源】富士山と東京2020大会ロードレースコースを活用した新たなコンテンツ（イベント、ツアー等）の創出。
 【自転車の多方面活用】市観光協会・市商工会・市スポーツ協会等が一体となり、自転車競技の振興、観光・健康づくりを始めとした地域の振興、次世代の担い手の育成・確保、新文化を支える地域社会の形成など、東京2020大会のレガシーとしてサイクルスポーツのまちづくりを総合的に推進。

<継続的な取組を確保できる体制>

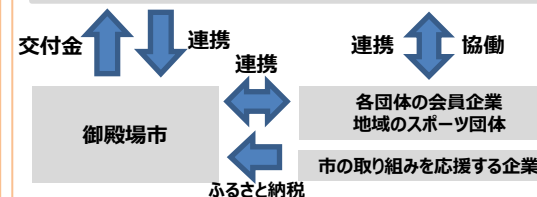
御殿場市スポーツタウン推進連絡会
(地域スポーツコミッション)

- ・スポーツ交流の効果を観光や商工業へ拡大・波及
- ・まちの賑わいの創出、地域経済の活性化等につなげる

(一社) 御殿場市観光協会
・観光振興

御殿場市商工会
・商工振興

御殿場市スポーツ協会
・スポーツ振興



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
産業スポーツ部2020オリンピック・パラリンピック課・市民スポーツ課
- 地方版総合戦略：
第2期御殿場市まち・ひと・しごと創生総合戦略・令和3年2月
- 地域スポーツコミッション：御殿場市スポーツタウン推進連絡会
(平成28年9月発足/令和2年11月スポーツコミッション登録)
- ホストタウンの相手先：イタリア・台湾・韓国



御殿場市公式 H P



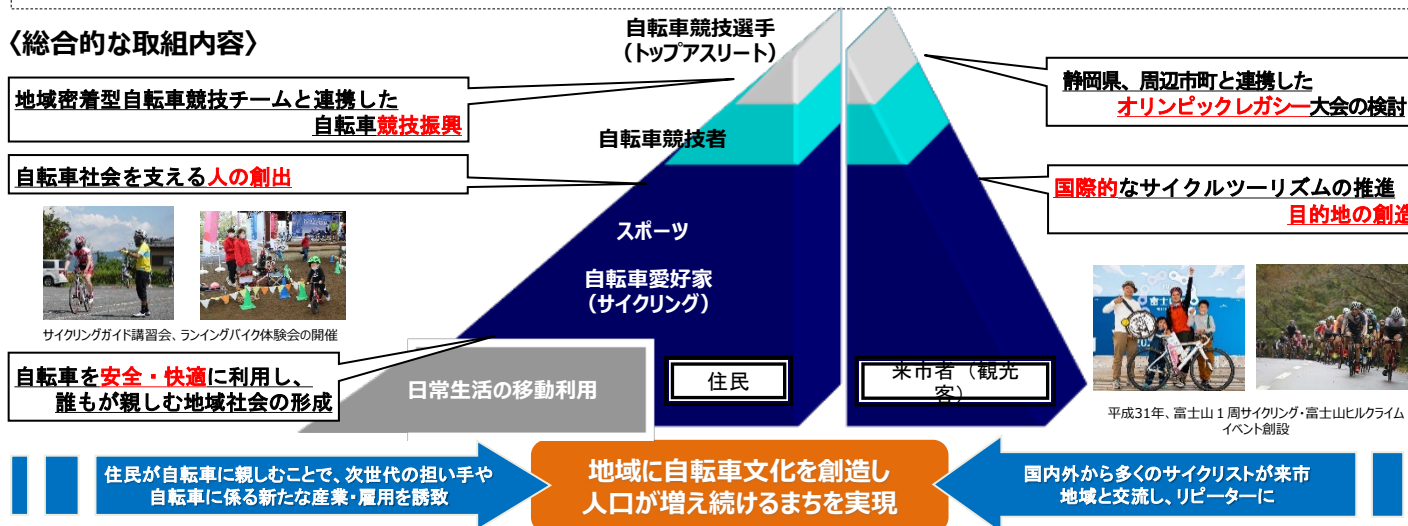
御殿場市スポーツタウン推進連絡会 H P

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・御殿場市は、滞留観光の未促進による地域経済の停滞、人口減少による慢性的な労働力の不足といったまちづくりの課題を抱えている。
- ・現在は、富士山の麓、東京2020大会ロードレース会場という環境から多くのサイクリストが訪れるが、地域に自転車の文化（する・観る・支える）が根付いていない。
- ・サイクリストを受入れる環境を整えるとともに、次世代を担う人材の育成・確保し、自転車に係る新たな産業の誘致と更なる観光の促進を図っていくことが重要。

<総合的な取組内容>



【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て✓

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換 ✓

<目標内容>

富士山・箱根の自然環境、標高の高さ等を活用した「富士山麓のスポーツのまち“すその”」の実現

- 【具体目標】 ①スポーツツーリズム事業による経済波及効果の拡大（今後4年間で現状値の1.5倍）
②スポーツを目的とした観光交流客数の増加、滞在型観光への転換、地域の魅力発信強化

<PRポイント>

【地理的環境】首都圏から100km圏内のアクセス、富士山・箱根外輪山といった世界に誇る自然環境を活かした「田園未来都市すその」ならではのスポーツツーリズム事業を展開
【スポーツ×（かける）●●でまちづくり】スポーツ合宿誘致、スポーツイベント開催・誘致、スポーツ医科学実証実験、アスリート食など、スポーツをキーワードに交流人口・関係人口の創出、経済効果の拡大、健康づくりを推進

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

裾野市スポーツツーリズム推進協議会がスポーツツーリズム事業を推進しています。



<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・富士山麓のスポーツ合宿の地としての認知度向上及び他地域との差別化が必要。
- ・スポーツ合宿の経済波及効果を拡大させるため、宿泊業だけでなく、他業種も含めた仕組みづくりが課題。
- ・陸上以外の合宿誘致、富士山麓や箱根の自然環境を生かしたアウトドアスポーツへの展開といった多角化が必要。

<総合的な取組内容>

第5次裾野市総合計画「地域資源を活用した魅力あふれるまち」

～地域が潤う観光まちづくりの推進！！～

【具体的事業】

■裾野市「準高地トレーニング」合宿誘致の推進

裾野市①医科学：準高地のトレーニング効果を医科学的に検証した実証実験データを活用したスポーツ合宿誘致を推進。

裾野市②アプリ：準高地トレーニングアプリ「S-SPO」の提供

裾野市③アスリート飯：大学×実業団と共同で「すその頂飯」を開発。市内飲食店等にて提供。食事面からもサポート！

裾野市④「S-Station」：スポーツ愛好家立ち寄りスポット設置

■アウトドアスポーツへの展開

富士山・箱根の自然環境を生かしたトレラン、トレッキング、サイクリング等を活用した更なる誘致・誘客を図る。



新たな顧客層の獲得・経済的効果の創出

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
産業部産業振興課
教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画
第2期裾野市スポーツ推進計画
- 地方版総合戦略
裾野市第5次総合計画
- 地域スポーツコミッション
裾野市スポーツツーリズム推進協議会(S-SPO)



<裾野市公式HP>



<S-SPO公式HP>

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
 ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
 ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

～ 産・学・官で連携したスポーツを活用した地域活性化の実現 ～

【具体目標】

- ①本事業での宿泊者数増加 (R3 3,050→ 4,050泊/年) ②本事業での市内企業収入増加 (R3 50,000千円→ 60,000千円/年)
 ③本事業への市民協力者や参加者数増加 (R3 5,000→ 10,000人/年) ④大学生が「まちづくり」・「地域企業」との交流数増加 (R3 75→ 110人/年)

<PRポイント>

【ワンストップ】会場、対戦相手、配宿、大会運営等の手配が完了
 【スポーツ弁当】市スポーツ栄養士監修のスポーツに適した地元食材の弁当の提供
 【観 光】豊富な観光資源を持つ市の強みを生かした各種オプションツアーの提供

<概要> 計画期間：～令和5年(2023年)3月31日

<現状・課題>

- ・御前崎市は全国でも有数の日照時間が長い地域であり、多くのスポーツ施設を有している。
- ・合併後17年で約4,500人減少(12.5%減)、特に若年人口の減少が課題。魅力ある地域づくりや働く場の提供が必要。
- ・観光客数も減少しているため、交流・関係人口の拡大が必要。

<総合的な取組内容>

「魅力ある発信・交流づくり」(第2期総合戦略)

～市の魅力を十分に発揮し、交流・関係人口を創出し、新たな人流をつくる～

<具体的事業>

【ワンストップ事業】

- ・合宿、大会、練習試合等の誘致・手配
- ・プロチームの合宿等誘致・手配(サッカー、陸上等)
- ・スポーツ食の開発・提供(昼食・夕食、ドリンク等)

【その他事業】

- ・ニュースポーツの発掘・活用(フットゴルフ、アルティメット等)
- ・観光オプションツアーの拡大
- ・地元プロアスリートを活用しての指導プログラム検討(2022年予定)
- ・地元大学のフィールドワークへの協力



天然芝・2019RWC南アフリカ代表チーム使用



NEWスポーツのフットゴルフ(市内ゴルフ場)



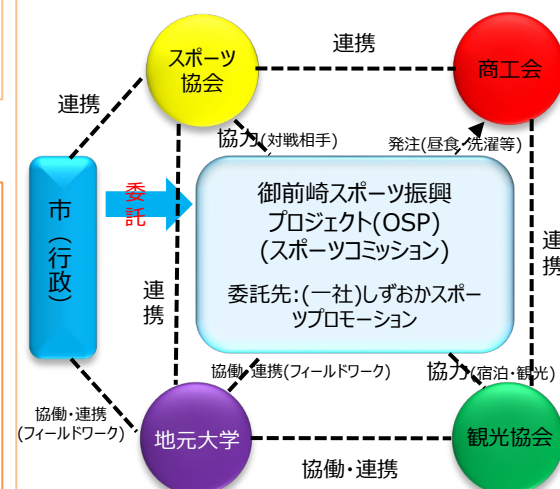
OSP主催サッカー大会



2019RWC公認チームキャンプ地(南アフリカ代表受入)

<継続的な取組を確保できる体制(図)>

ALL御前崎で御前崎スポーツ振興プロジェクトを推進します。



※委託費は企業版ふるさと納税を活用、今後は自走化を検討

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
教育委員会社会教育課(スポーツ振興政策)
(公財)御前崎市振興公社(施設管理運営)
- 地方版総合戦略
御前崎市第2期総合戦略(2020年4月)
- 地域スポーツコミッション
御前崎スポーツ振興プロジェクト(2018年6月)
- ホストタウンの相手先 なし
- その他
2019RWC 南アフリカ・ジョージアの公認チームキャンプ地



<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- 1 西尾の魅力を生かして**楽しく継続して健康づくりに取り組む**ことのできる仕組みを構築する！
- 2 スポーツ大会やツアーに市外からの参加を呼びかけ、関係人口の創出・拡大を図り、**将来的な移住者を増加**させる！
- 3 民間消費を市内に呼び込み**経済循環率を向上**させる！

<PRポイント>

- スポーツ都市宣言**に基づき、スポーツを核としたまちづくり、健康づくりを推進する。
- フルマラソンの開催**（ポピュレーションアプローチ）や**健康ツーリズム**（ハイリスクアプローチ）により市民の健康づくりを促すとともに、地元商工・観光団体と連携し、観光資源や特産品のPRを行い市内消費の増進、関係人口の創出・拡大を図る。
- デンソーエアービーズ**とホームタウンパートナー協定を締結し、市を挙げてバレーボールを盛り上げていく中で、市民の一体感の醸成、地域のスポーツ振興、市の知名度向上を図る。

<概要> 計画期間：～令和5年3月31日

【現状・課題】西尾市では高齢化率が25%を超えており、人生100年時代を見据えて、**健康づくりを意識していく事**が求められている。本市の標準化死亡率をみると生活習慣病に起因する疾患が高く、**ハイリスク者に対する健康づくりの支援と、市民に対する生活習慣病予防の習慣づけ**が課題となっている。一方、本市はプロスポーツチームとホームタウンパートナー協定を結んでおり、**市民がスポーツに親しみやすい環境**が整っている。

<総合的な取組内容> ※地方創生推進交付金を活用

- スポーツ都市宣言** ⇒「スポーツで元気になるまち西尾」を実現するため、スポーツ都市宣言を実施。
⇒市民の健康づくり、地域の活性化や一体感の醸成、スポーツ施設の再編等、スポーツを核としたまちづくりを推進。

○ポピュレーション・アプローチ
（低リスク層：運動習慣の定着）フルマラソン大会をきっかけ
とした健康づくり

運動習慣の意識付けや健康づくりのまちをPRするためフルマラソン大会を開催。



事業で活用する
西尾の地域資源！



西尾の抹茶



吉良温泉



色産うなぎ

○ハイリスク・アプローチ
（高リスク層：健康状態の改善）

にしお健康ツーリズム

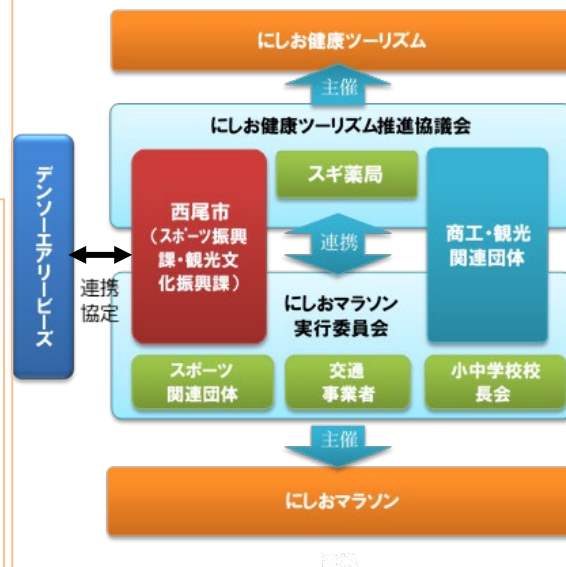
企業と連携し、健康上のリスクのある人を対象に、市内の温泉や食の資源を活用した健康プログラムを開発。
プログラムを組み込んだツアーを販売し、健康づくりへの行動変容を促し、最終的にはフルマラソンの参加・完走を目指す。

○バレーボール×まちづくり

デンソーエアービーズと
ホームタウンパートナー協定を締結

総合体育館観客席の増設等により、試合会場確保・集客能力を拡大する。観光資源や特産品のPRも実施する。
エアービーズは市のイベントへの出演や地元小中学生対象のバレーボール教室も実施。

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
交流共創部スポーツ振興課
- 地方スポーツ推進計画：
西尾市スポーツ推進計画(H31.3)
- 地方版総合戦略：
第2期西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略(R3.3)
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし
- その他：
スポーツまちづくりビジョン2040(策定中)
デンソーエアービーズとホームタウンパートナー協定
スギ薬局と包括連携協定
スポーツ都市宣言(R3.4)



西尾市公式HP

にしお
マラソンHP

<目標分野> ※該当するものに全て

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ☒
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ☒
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換 ☒

<目標内容>

- ① スポーツをテーマにまちの賑わいを創出することにより、市内外の交流人口の増加につなげる。
- ② 甲子園地域を「スポーツ関連ビジネスの聖地」としてブランド力を高めることで、将来的には定住人口減少の度合いを緩めることを目指す。

<PRポイント>

【スポーツをテーマにしたまちの賑わいの創出】スポーツ関連資源を紹介するエリアPR媒体の発行やにぎわい創出イベントの実施

【スポーツ関連ビジネスの聖地】豊富なスポーツ資源を生かし、スポーツ関連ビジネスが展開しやすい環境づくりを推進

豊富なスポーツインフラ

阪神甲子園球場、ひょうご西宮アイスアリーナ、甲子園海浜公園があり、BBQエリアやサーファーエリアの他、武庫川の河川敷はランニングやサイクリングの環境が整う

盛んなスポーツ活動

多くのプロ・実業団チームがある他、トップアスリートによる学校訪問や指導者講習会の活動を行う「アスレチックリエゾン西宮」等が存在

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日 ※これ以降も取り組みとしては継続する予定。

<現状・課題>

- ・野球シーズンを含む1～9月に対して、開催時以外の10～12月は閑散としている。
- ・市内に拠点を置くプロ・実業団チームの選手は、ビジネスの経験や知識がない場合があり、引退後のセカンドキャリアに課題がある。

<総合的な取組内容>

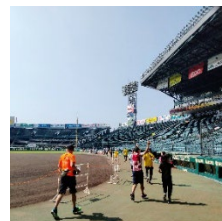
地域のスポーツ資源を生かした日常の暮らしにスポーツ・レジャーを取り入れた健康で豊かなライフスタイルを、「甲子園スタイル」として提案。

【具体的事業】※地方創生交付金も活用し以下の事業を実施

- ・プラットフォーム事業
(西宮スポーツアカデミー、事業者交流会の開催)
多様なスポーツ関連ビジネスを生み出す基盤づくりを進める。
- ・賑わい創出事業
市民のスポーツ参画意欲を高めるとともに、年間を通して市内外からの交流人口の増加を目指す。
- ・情報発信事業
参画企業の広報媒体やSNS等を活用した情報発信を行い、来街者の増加へつなげる。



プラットフォーム事業
西宮スポーツアカデミーグループワークの様子



賑わい創出事業
甲子園エンジョイラン



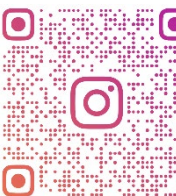
情報発信事業
エリア情報誌「甲子園スタイルガイド」



情報発信事業
Instagramフォトコンテスト告知画像



甲子園スタイル ホームページ



KOSHIEN.STYLE
甲子園スタイル Instagram

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

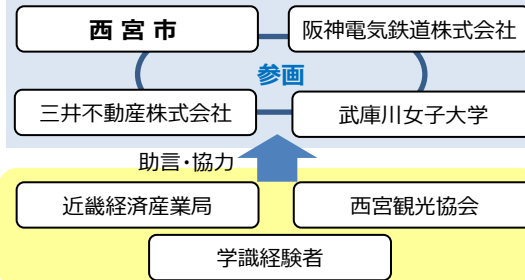
スポーツを核とした 甲子園エリア活性化推進協議会

◎プラットフォーム事業

- ・西宮スポーツアカデミー
- ・事業者交流会

◎賑わい創出事業

◎情報発信事業



※将来的な自立・自走化を目指す。

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：
産業文化局文化スポーツ部スポーツ推進課
- 地方スポーツ推進計画：
西宮市スポーツ推進計画(後期) 平成31年3月
- 地方版総合戦略：
第5次西宮市総合計画 令和元年11月
- 地域スポーツコミッション：
スポーツを核とした甲子園エリア活性化推進協議会 令和元年10月
- ホストタウンの相手先：なし
- その他：なし

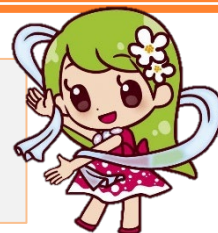


<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病氣予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

「グラウンド・ゴルフの聖地」「ウォーキングリゾートの町」としての地位を確立させて、各国とスポーツツーリズムの相互推進を図る。併せて、これらのスポーツを通じて町民の健康を増進し、全世代が生き生きと暮らす「生涯活躍のまち」を実現する。

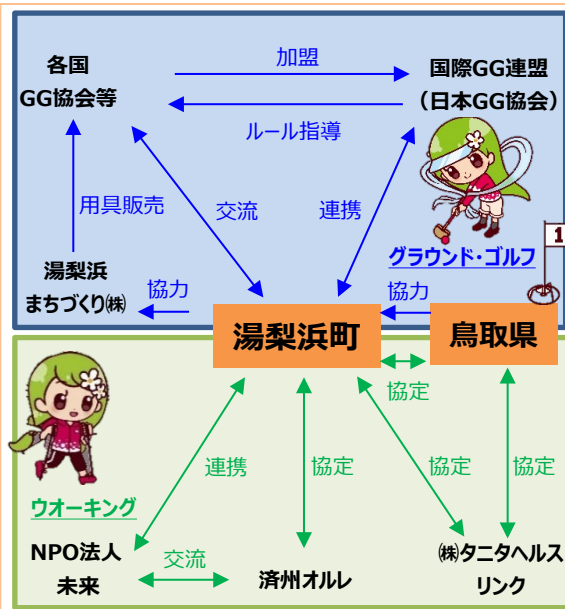


<PRポイント>

【町の資源】グラウンド・ゴルフの発祥地／全日本ノルディック・ウォーク連盟公認コース第1号

- ➡ グラウンド・ゴルフやウォーキングの特長を各国と共有し、それぞれの開催する大会に参加するなどして交流を図る。
- ➡ グラウンド・ゴルフやウォーキングによって町民の健康寿命を延伸し、医療費や介護給付費を抑制する。

<継続的な取組を確保できる体制>



<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

<現状・課題>

- ・町内の二つの温泉「はわい温泉」「東郷温泉」の宿泊人口が低迷。インバウンドを促進する必要がある。
- ・要介護・要支援認定者の増加に伴い、生活習慣病・フレイル予防対策を強化する必要がある。
- ・WMG2021関西のグラウンド・ゴルフ競技開催地に決定、韓国の社団法人済州オルレと「友情の道」協定締結

<総合的な取組内容>

2つのシンボルスポーツを軸に海外への競技普及と地域住民の運動機会確保を促進

・グラウンド・ゴルフ

国際グラウンド・ゴルフ連盟（IGGF）と連携し、海外グラウンド・ゴルフ協会の設立を支援



大会相互参加で
インバウンド促進

・ウォーキング

- ・済州オルレと共同で海外広報を展開
- ・地域住民向けのウォーキング教室の開催



■インバウンド促進

スポーツ資源で人を呼び込み
温泉地も活性化



■健康増進

「健幸」ポイント事業とも連携して
町民の健康度改善を啓発



スポーツツーリズムの推進と 生涯活躍のまちの実現！

<鳥取県湯梨浜町「グラウンド・ゴルフ」と「ウォーキング」>

<https://www.youtube.com/channel/UCQBtQzpYdVEUb-UjoVC01Q>

動画をチェック！



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先
生涯学習・人権推進課、健康推進課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略
第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略
(2020年3月23日策定)
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：なし
- その他
国際グラウンド・ゴルフ連盟（IGGF）
(2019年5月24日設立)



IGGF

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かして「楽しいまち」への転換

<目標内容>

「ソフトテニス」を地域のシンボルスポーツに位置づけ「ソフトテニスの拠点」を形成し、スポーツと地域住民の多様な関りを創出することによる地域活性化と、スポーツを通じた関係・交流人口の拡大による経済活性化を実現し、町民が満足感、幸福感を実感できるまちを実現する。

<PRポイント>

「ソフトテニス」・・・本町を拠点に国内外で活躍する日本初の地域密着型クラブチーム「どんぐり北広島」は、チームを応援する地域住民とチームが日々の交流を通じて相互に「やりがい・生きがい」を創出しており、スポーツによる地域の活性化が実現されている。また、全国から多くの選手が合宿・大会に訪れ交流人口の拡大も図られている。

「きたひろスポーツ」(通称：きたスポ)・・・これまでの体育の概念にとらわれない幅広い身体活動を「きたひろスポーツ」と位置づけることで町民誰もが日々の生活を通じてスポーツとの多様な関りを実感し、幸福感、満足感を感じる町づくりに取り組んでいる。

<概要> 計画期間：～令和4年3月31日

<現状・課題>

- ・北広島町としての一体感の欠如、「する」スポーツ以外の「みる」「ささえる」スポーツといった要素への対応が不足している。
- ・入込観光客数の減少により、地域産業が衰退しており、新たな人の流れを創出する具体的な取り組みが必要である。

<総合的な取組内容>

「第2期 北広島町スポーツ推進計画」

◆目指す姿◆ 「きたひろスポーツ」を通じて幸福感・満足感を感じられる北広島町 ～誰もが、住みたい・住んで良かった・住み続けたいまちの実現～
きたひろスポーツ＝「スポーツを通じた楽しさ・喜び・幸せを感じる身体活動」

★地域の活性化
(「やりがい」「生きがい」の創出、「きたスポ」の情報発信)

★健康長寿社会の実現
(健康促進・啓発、子どもの体力向上)

★トップアスリートの支援と活用
(活動支援、小・中・高校生への技術指導)



★経済の活性化
(地域資源を活かした観光開発、大会・合宿誘致)



・講師としてのソフトテニス教室参加
・地域のイベントへの参加
・地域主催の選手の「成人式」開催

・ソフトテニスの拠点整備による合宿・関連施設の充実
・ソフトテニス合宿・大会 等々



ソフトテニスクラブチーム「どんぐり北広島」との連携

★共生社会の実現
(障がい者スポーツ活動支援、バリアフリー化促進)



<継続的な取組を確保できる体制>

スポーツの振興(インナー)

北広島町

- ・スポーツ推進計画に基づく、政策立案
- ・健康促進・啓発、子どもの体力向上
- ・トップアスリート・障がい者スポーツの活動支援
- ・施設環境整備(バリアフリー化等)
- ・地域の特色を活かしたスポーツ、ラジオ体操の支援・普及
- など

スポーツによる振興(アウト)

きたひろスポーツコミッション

- ・スポーツ合宿・大会 企画・誘致、観光開発
- ・地域資源を活用したアクティビティの開発、磨き上げ
- ・きたスポの情報発信
- ・スポーツ観光情報収集・発信
- など



関係者・団体

- ◆トップアスリート
- ・ソフトテニスクラブチーム「どんぐり北広島」
- ・パラ陸上やり投げ 白砂 匠廣選手
- ◆北広島町スポーツ協会
- ◆総合型地域スポーツクラブ
- ◆町内スポーツクラブ
- ◆スポーツ施設管理者
- ◆観光協会
- ◆観光事業者・宿泊事業者
- ◆小・中・高等学校
- など

◆行政・民間の垣根を越えた横断的な連携を図る。( : 連携・支援)

各種基礎データ

- ・スポーツ部局の所属先：首長部局内・まちづくり推進課
- ・地方スポーツ推進計画：有・独自計画・第2期スポーツ推進計画
- ・地方版総合戦略：有
- ・地域スポーツコミッション：きたひろスポーツコミッション
・令和3年3月
- ・ホストタウンの相手先：ドミニカ共和国

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

プログラムの対象を一部の健康志向の高い市民に限定せず、20歳以上の市民を対象に幅広く実施することで、「美と健康」のまちづくりを実現する。

- 【具体目標】①運動習慣の定着化
②運動機能の改善

医療費・介護給付費の抑制

<PRポイント>

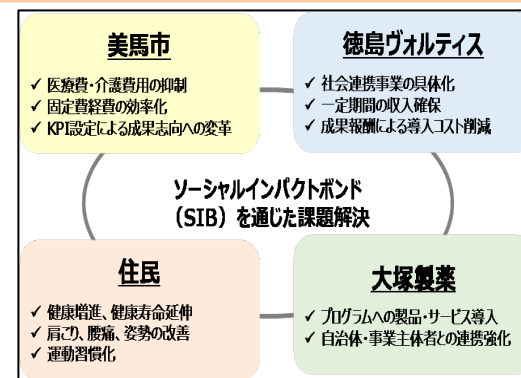
【美と健康】のまちづくり

➡ SIB※の手法を採用する事で、最少の経費で最大の効果を挙げることに取り組んでいる点

➡ プログラムに参加する事で、運動機能の改善のみならずコミュニティの形成やコミュニケーションにより心身ともに改善が図られる点

※ SIB(Social Impact Bond)…行政の成果連動型支払い契約と民間資金の活用を組み合わせた官民連携手法の一つ

<継続的な取組を確保できる体制（図）>



プログラム修了後の継続的な取組み

修了後のOB・OG会

開催例：ヴォルティスの試合前にグラウンドでコンディショニングプログラムを実施、登山、運動会、クロスカントリー等

- ・定期的な開催による**運動習慣の定着**
- ・継続することによる**運動機能の改善**

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会地域学習推進課
- 地方スポーツ推進計画：無
- 地方版総合戦略：第3次美馬市総合計画
- 地域スポーツコミッション：無
- ホストタウンの相手先：無



美馬市HP



総合計画

<概要> 計画期間：～令和6年3月31日

【現状・課題】健康や体を動かすことに興味がない・無関心な人たちが「無関心層」にどうやって「興味を持ち」「参加してもらうか」、様々なアプローチが必要。また、運動習慣を継続するための、機会の提供が必要。

<総合的な取組内容>

美馬市、徳島ヴォルティス、大塚製薬の連携協定のもと、SIBの手法を活用しつつ、関連各社の事業ノウハウを結集して事業を展開！

<ヴォルティス・コンディショニングプログラム（運動×栄養×ICT）>

徳島ヴォルティスコーチによる8週間の運動プログラムと栄養補給、ICTの活用を組み合わせたプログラムを実施！

<美馬市版SIB スキーム図>



【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

＜目標分野＞ ※該当するものに全て印

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化 ✓
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防 ✓
- ③ 自然と体を動かしてしまう「楽しいまち」への転換

＜目標内容＞

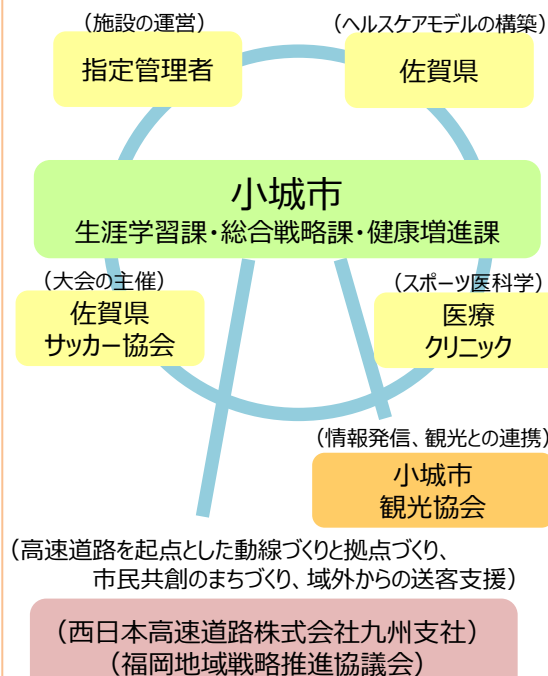
- 既存の保健福祉センター「アイル」と周辺施設の一体的な活用による拠点力の強化、交流人口の増加と賑わい創出
- ① サッカー場を整備し、アイルをクラブハウスとして周辺施設と一体的に活用した際の経済効果（令和元年度比で+505百万円）
 - ② アイルの市外利用者（令和元年度比で+9.1万人）
 - ③ 九州大会以上のサッカー大会誘致数（令和元年度比で+25大会）

＜PRポイント＞

【アイル資源磨き】 ～「健康」を理念とした「スポーツ」、「医療」、「温泉」の一体的活用による特色ある地域交流拠点へ～

天然温泉と温水プールを有する保健福祉センター「アイル」と隣接する都市公園牛津総合公園、周辺にある宿泊施設、医療機関等の地域資源を一体的に活用し、アイル周辺エリア全体の価値向上と機能強化を図る。

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



＜概要＞ 計画期間：～令和7年3月31日

＜現状・課題＞

- ・本市のスポーツ施設は多目的施設が大半で、交流人口拡大や地域活性化につながる公式大会が開催できる施設がない
- ・本市への来訪者は主にイベント開催時等に限られてしまっており、常時人を呼べるコンテンツが不足している
- ・本市へは日帰り客が大半を占め、宿泊者が少ない

＜総合的な取組内容＞

アイル周辺エリアを市民・スポーツ・観光の交流拠点として再整備し、誰もがスポーツを楽しみながら健康づくりができるまちへ

▶ アイルの隣接地に公式大会の開催要件を満たした人工芝2面のサッカーグラウンドを整備

▶ アイルをプールや天然温泉、クラブハウスの機能を有した保健福祉センターへリニューアル

▶ スポーツ×天然温泉×メディカルの連携によるこれまでにない先進的なヘルスケアモデルの構築

地方創生拠点整備
交付金
JFAサッカー施設整備
補助成事業助成金
を活用



地域再生計画



小城市牛津保健福祉センターアイル



サッカーグラウンド完成イメージ

賑わいの創出

交流人口の増加

域内消費の増加

健康増進・怪我予防

教育・生涯学習

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画：小城市スポーツ推進計画 平成28年3月
- 地方版総合戦略：第2期まち・ひと・しごと創生小城市総合戦略 令和2年3月
- 地域スポーツコミッション：－
- ホストタウンの相手先：－



小城市HP

<目標分野>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

地元プロスポーツチームの魅力を生かした活力あるまちを目指す！（喜入地域の活性化）

- ① ファン・サポーターや大会参加者等による交流・関係人口の拡大やにぎわい創出
- ② 地域住民等のスポーツ振興や健康増進

<PRポイント>

- ①【新たな交流拠点施設】チームの練習場としてだけでなく、各種大会の開催や地域住民の一般利用やサッカー教室等の開催など地域に開かれた施設とする。
- ②【官民連携での地域活性化のモデル】施設の整備支援や施設と地域の結び付きを深める取組に企業版ふるさと納税を活用するなど、民間企業や地元団体等と連携して地域活性化に取り組む。

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

関係団体

- ① 鹿児島ユナイテッドF C
- ② 県スポーツ振興課
- ③ 県・市サッカー協会

市スポーツ課

連携・協力

喜入地域

- ① 市喜入支所
- ② 喜入盛り上げ隊、商工会等
- ③ マリンピア喜入、グリーンファーム

各種基礎データ

- スポーツ関係の所管:観光交流局観光交流部スポーツ課
(市長事務部局内)
- 国体関係の所管:観光交流局国体推進部
(市長事務部局内)
- 学校体育の所管:教育委員会事務局教育部保健体育課
(教育委員会内)
- 地方スポーツ推進計画:鹿児島市スポーツ推進計画(H29.3)
- 地方版総合戦略…鹿児島市まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン・総合戦略(R3.3改定)
- ホストタウンの相手先…南アフリカ共和国



市ホームページ

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日（企業版ふるさと納税適用期限）

<現状・課題>

- ・鹿児島市喜入地域は、本市南部に位置し、人口減少傾向にあることから、地域活力の維持・推進を図る必要がある。
- ・共に行政課題を解決するまちづくりのパートナーとして、本市はこれまでもチームの喫緊の課題であった練習場確保の支援（市施設の優先利用）を行ってきたが、芝養生期やスポーツ大会・キャンプ受入時期等は練習場確保が困難であった。

<総合的な取組内容>

鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進プロジェクト（地域再生計画）

- ・まちの魅力を「みがく」事業（鹿児島オリジナルの魅力向上）

<具体的な事業>

チーム力強化や
練習見学の実施各種イベント
開催や施設開放チーム関係者の
地域内居住等周辺施設と連携
した地域浸透

喜入地域の活性化

- ① 交流・関係人口の拡大
- ② スポーツ振興、健康増進
- ③ 地域経済の活性化

鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 <http://www.city.kagoshima.lg.jp/kikakuzaisei/kikaku/sousei/2021senryakukaitei2021.html>

【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野> ※該当するものに全て印

<目標内容>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
 ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
 ③ 自然と体を動かして「楽しいまち」への転換

- 1 保存・継承 空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し、礼節を重んじる精神性が正しく次世代へ継承
 2 普及・啓発 環境変化を的確に捉えた施策の推進により、世界の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識
 3 振興・発展 空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立、空手による産業振興
 【成果目標】県外・海外からの空手関係者来訪数 10,500人（2022年度）

<PRポイント>

- ①【沖縄空手世界大会の定期開催等を通じた国際交流】…世界大会や空手の日記念演武祭等の世界レベルの大会や国際的なイベントの実施
 （令和4年は第2回沖縄空手世界大会・第1回沖縄空手少年少女世界大会及び空手一斉演武のギネス更新を予定）
 ②【空手を活用した産業の創出・振興】…空手を組み込んだ体験型観光プログラムや商品等の開発支援

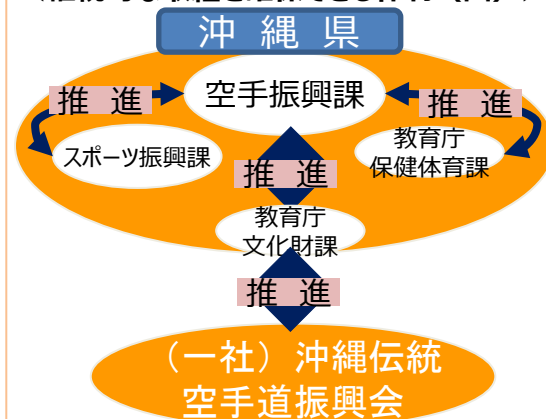
世界大会



一斉演武



<継続的な取組を確保できる体制（図）>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：文化観光スポーツ部
- 地方スポーツ推進計画：沖縄県スポーツ推進計画（平成25年3月）
- 地方版総合戦略：沖縄21世紀ビジョンゆがふしまづくり計画（令和2年3月）
- 地域スポーツコミッション：スポーツコミッション沖縄（2015から本格稼働）
- ホストタウンの相手先：0
- その他：

沖縄空手振興
ビジョンロードマップ沖縄空手
振興ビジョン

<概要> 計画期間：沖縄空手振興ビジョン（2018年度～2037年度）ロードマップ第1期（2018年度～2022年度）

<現状・課題>

現状 沖縄を発祥の地とする空手は、世界に1億3,000万人の愛好者がいると言われており、空手の体験ツーリズムが盛んになっているとともに、世界に向けた普及が進展し、国際交流も活発。
 課題 指導者及び後継者の育成、道場や空手関係団体の運営強化、認知度の向上、空手愛好家の受入体制の強化、空手関連産業という新たな沖縄型産業の創出等。

<総合的な取組内容>

■空手を軸としたマーケティング戦略の構築

「空手関連産業」の創出を図るため、空手を組み込んだ**体験型観光プログラム商品**等の開発を支援

- ・空手を目的とした交流人口の増加
- ・観光産業や商工業等関連産業への波及効果

→ 空手が沖縄経済を成長させる新エンジンに！



空手の日記念演武

空手の魅力の向上・発信

関連産業の消費拡大

■空手の魅力を伝える演武会等の開催

（県外）沖縄空手の指導者等を国内外に派遣し、**現地でセミナー**等を開催

（県内）**世界レベルの大会**の開催や沖縄空手の活用ニーズを有する団体へ**指導者を派遣し技術指導**等を実施



セミナーの様子（ドイツ）

県内外における継続的な普及促進

※内閣府の沖縄振興特別推進交付金を活用

【フォローアップ欄】令和4年度以降における計画の進捗状況

<目標分野>

- ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病気予防
- ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<目標内容>

- ・国内外からの観光客や観戦者を対象にスポーツと観光を融合したスポーツツーリズムを推進する。目標値:コンテンツ数 (15)
- ・海外からのスポーツキャンプ・合宿の受入体制を構築し、充実化を図る。目標値:海外スポーツ団体の受入数 (4団体)
- ・スポーツと地域資源を掛け合わせた商品開発やサービス開発を行う事業者を支援する。目標値:新たにスポーツ関連ビジネスに取り組む事業者数 (15事業者)

<PRポイント>

- ①【スポーツコミッションの多角化戦略】…デジタル(DX)化による施設予約の効率化を図り、スポーツ交流及び体験等のイベント開催への利便性を向上させ、スポーツツーリズムによる交流人口の増加を図る
- ②【東京2020オリパのレガシーを継承した海外合宿受入】…事前合宿を受け入れたノウハウを市内の事業者やスポーツ団体等へレガシーとして共有し、海外のスポーツチームを受け入れる体制の基盤を強化する
- ③【スポーツ関連ビジネスの発掘・育成】…地域の金融機関や各支援機関と連携し、スポーツに関連する商品開発やサービス提供を行う事業者や起業家を支援する

<概要> 計画期間: ~令和5年3月31日

<現状・課題>

- ① スポーツ施設利用者及びスポーツファンに対し、中心市街地の事業者への誘客の取り組みが弱い
- ② 海外の代表チームの事前合宿受け入れ等の経験をいかにして継承していくか。(受入ノウハウ、海外チームの要望に沿った環境整備、その他有形無形を問わず事業実績のレガシー化を図ることが課題)

<総合的な取組内容>

☆スポーツコンベンションシティ2.0
(成長期: 2012年~2020年)
ホームタウン支援、オリパホストタウン・事前合宿受入、スポーツツーリズム等

☆スポーツコンベンションシティ1.0
(創成期: 1996年~2011年)
スポーツ環境整備、プロ野球キャンプ受入等

スポーツコンベンションシティ3.0 (発展期: 2021年~)

- ① スポーツコミッションの多角化戦略 (デジタル化推進含む)
- ② 東京2020レガシーを継承した海外合宿受入
- ③ スポーツ関連ビジネスの発掘・育成等



デジタル(DX)化による施設予約の効率化等※1



沖縄アリーナ供用開始(合宿受入開始)

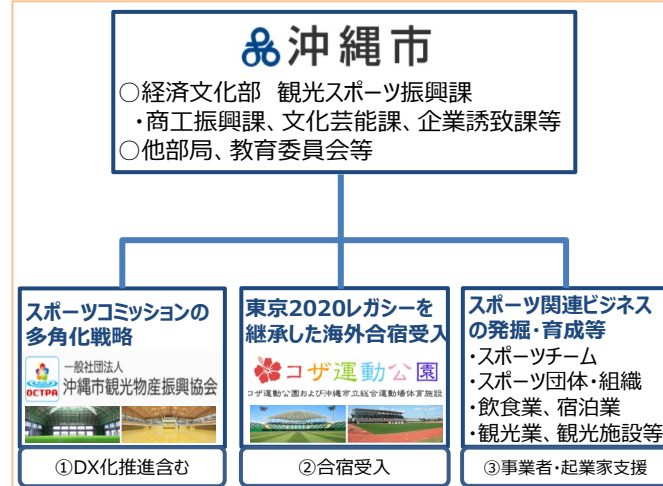


コラボレーションによる新商品開発等※2



【フォローアップ欄】 令和4年度以降における計画の進捗状況

<継続的な取組を確保できる体制(図)>



各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先: 経済文化部観光スポーツ振興課(首長部局内)
- 地方スポーツ推進計画: スポーツコンベンションシティ宣言(平成8年9月24日)、沖縄市スポーツ推進計画(平成26年3月)
- 地方版総合戦略: 第5次沖縄市総合計画前期基本計画・第2期沖縄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年4月1日)
- 地域スポーツコミッション: 一般社団法人沖縄市観光物産振興協会(平成26年4月1日)
- ホストタウンの相手先: ニューゼaland(空手競技)
- 東京2020オリンピック事前キャンプ協定締結による相手先: フランス(男子バレーボール競技)